

小笠原島紀事

卷之二十

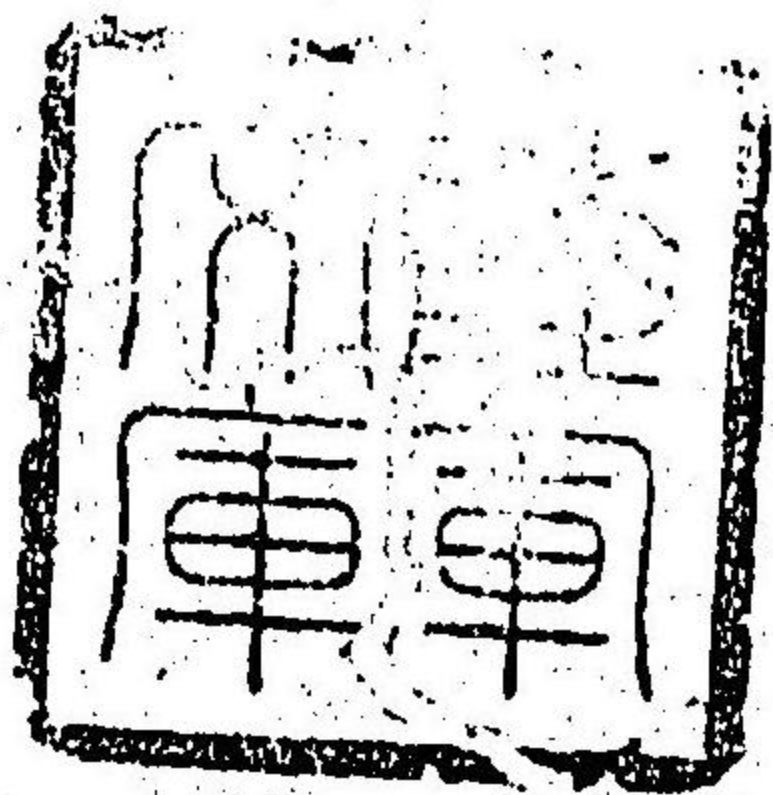
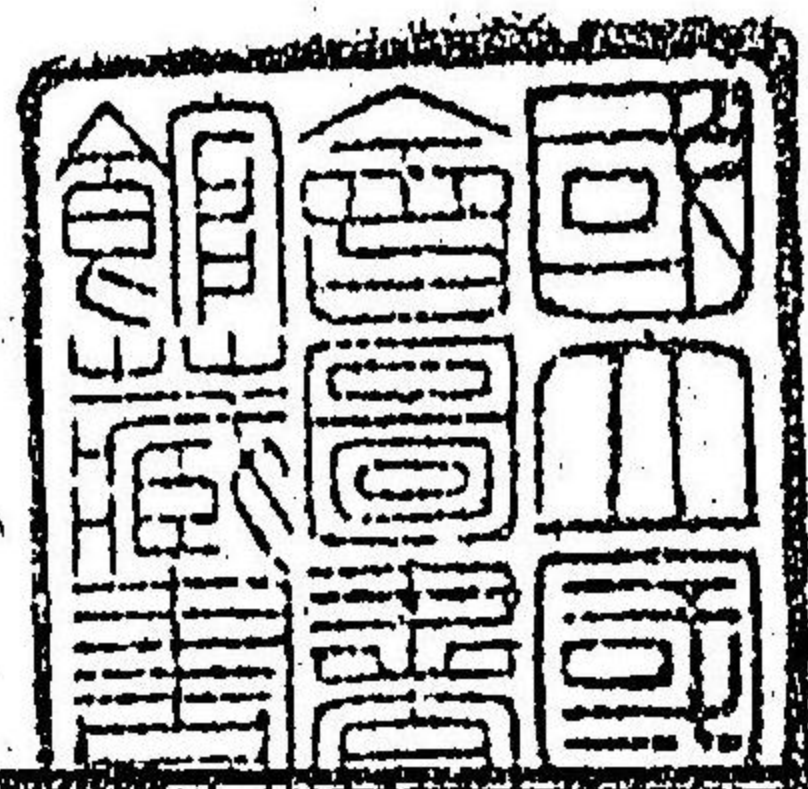
母島真景圖

廿二

W243
9

三三三	一七	門	母島真景圖
冊	號	番	

陸軍文庫
和
第一五五番
共三冊



W243
9

小笠原島紀事卷之二十

目錄

小笠原島真景圖 卅五ノ部

小笠原嶋眞景園

母島之部

二月十日父島より
舟中より全島西南
山面を見る姉妹諸
島元三図外ニあり

小富士山



浦南

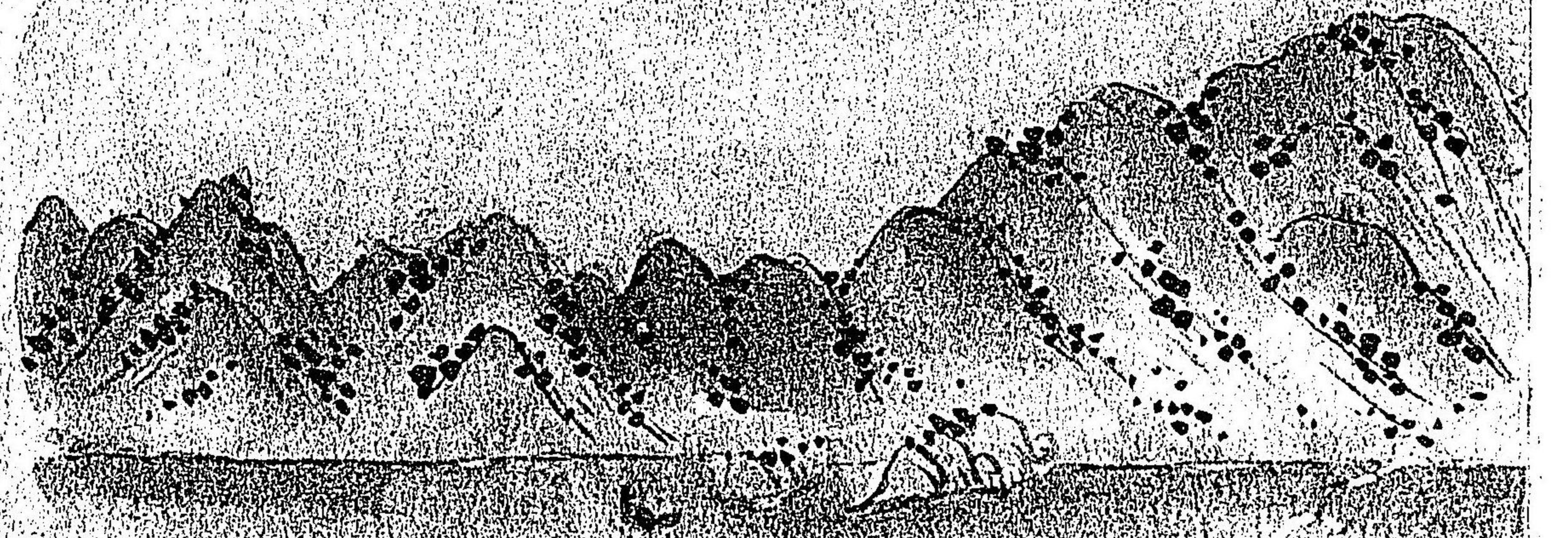
谷村沖

剣見山

乳房山



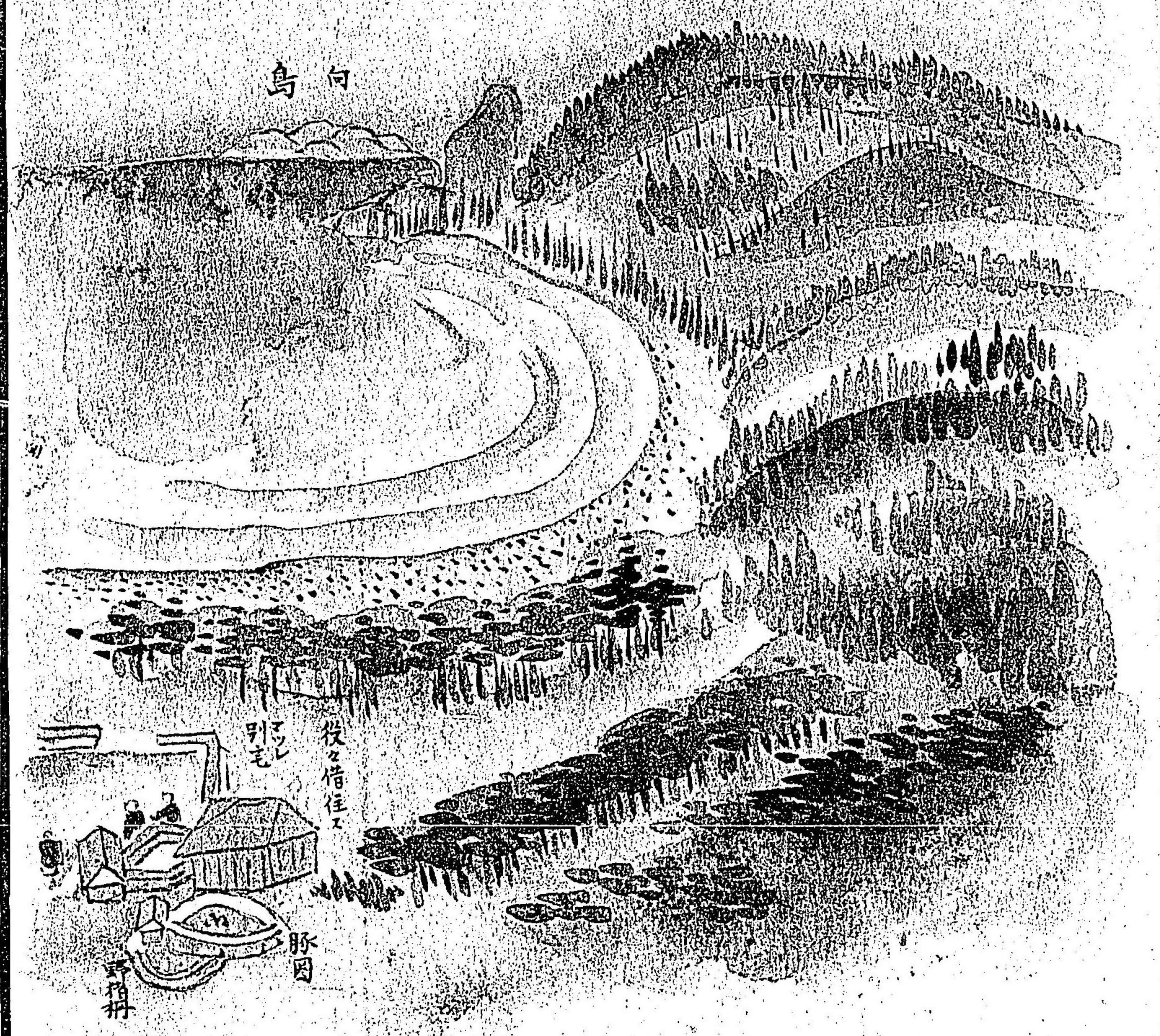
石子柳



兜
岩
紀
行
子
兜
岩
紀
行
子



丹波沖村港之図補



白鳥

後之借住工
別宅
野舟
豚因



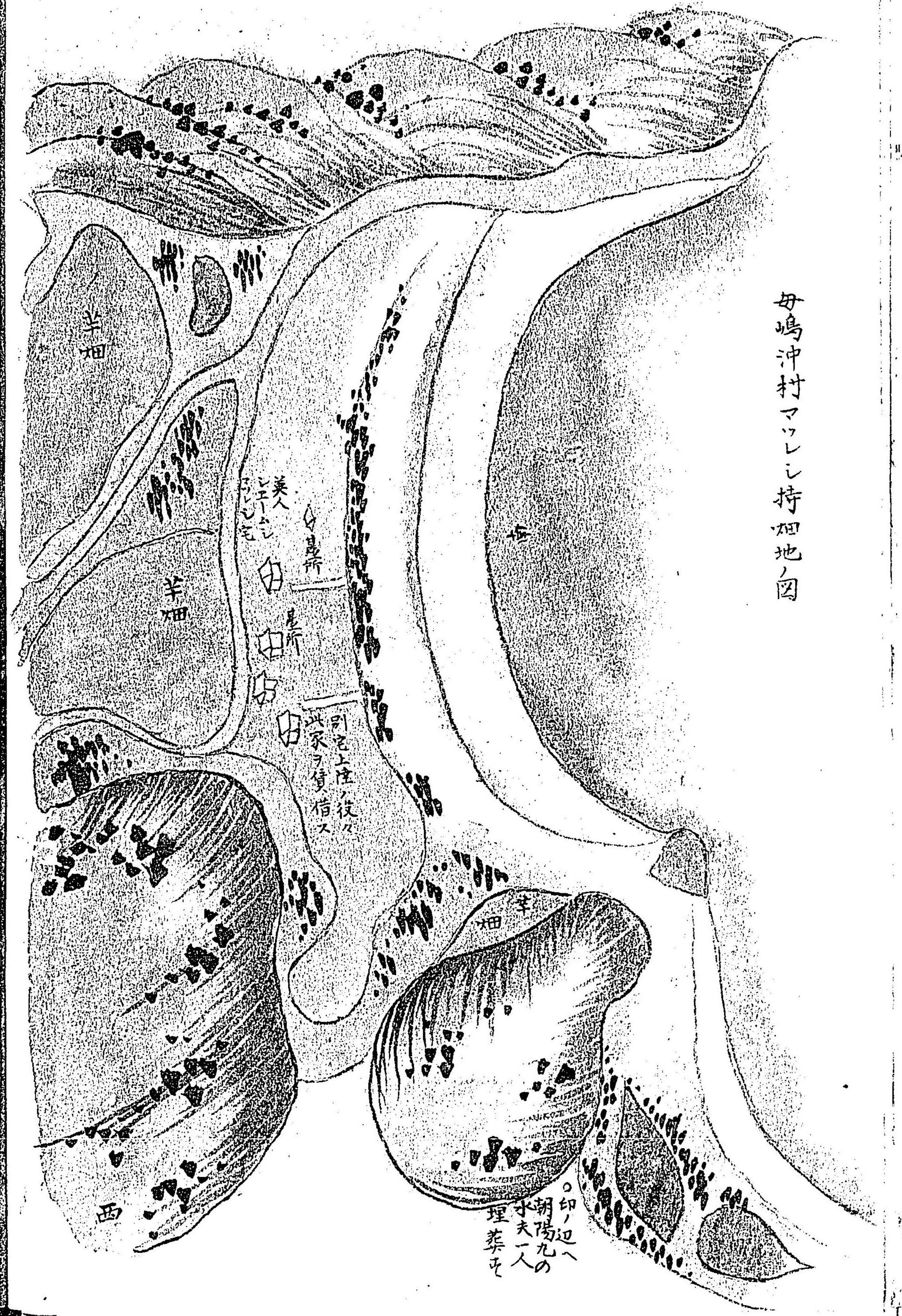
布島

平島

成陸元
父島
向島
帆島

御子燈方野舟
宅レツマ

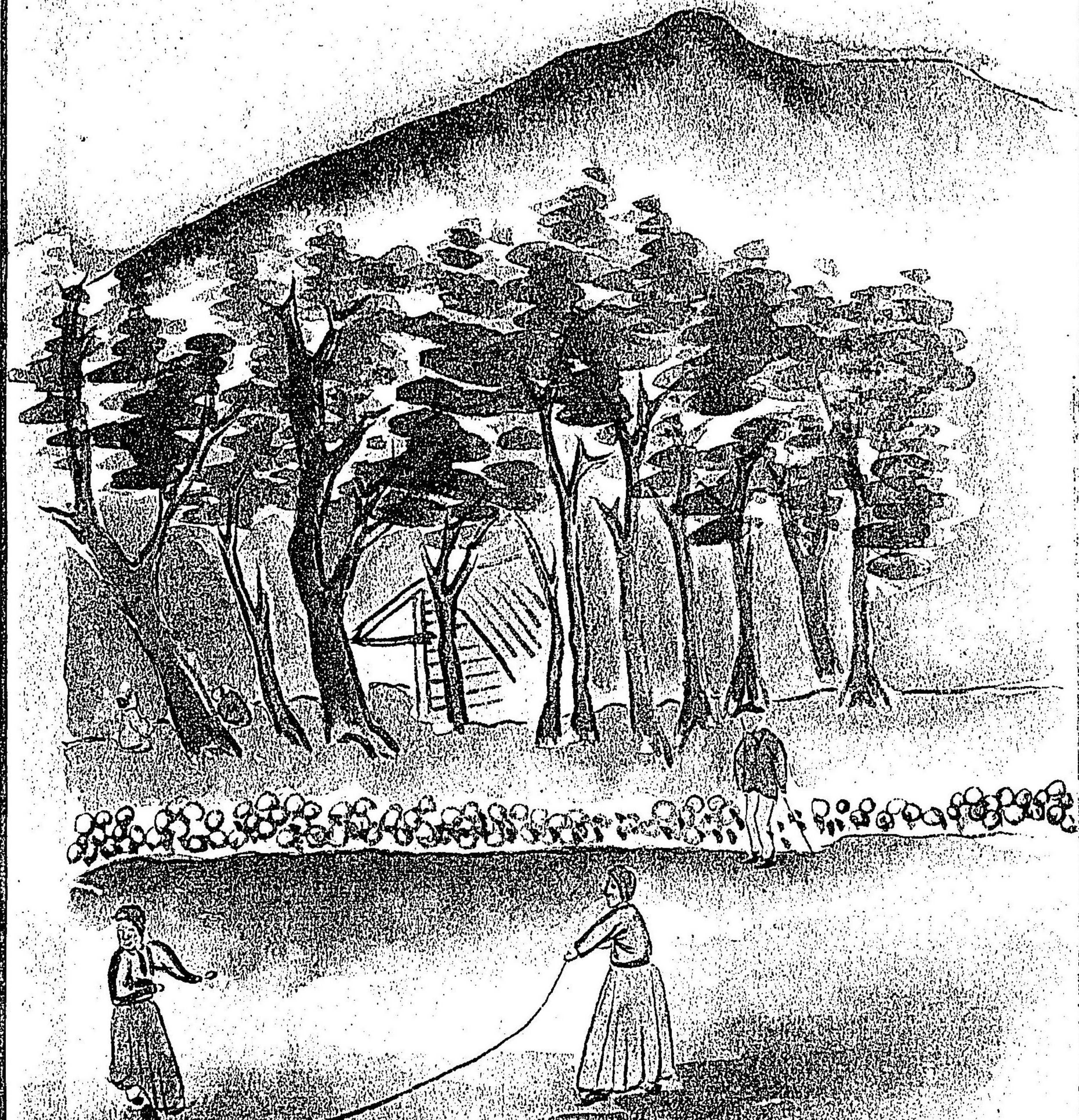
母嶋沖村マツルシ持畑地図



美人
三ノ
五ノ
由
由
由
別宅上陸後々
此家ヲ賃借ス

印ノ辺ハ
朝陽丸の
水夫一人
埋葬ス

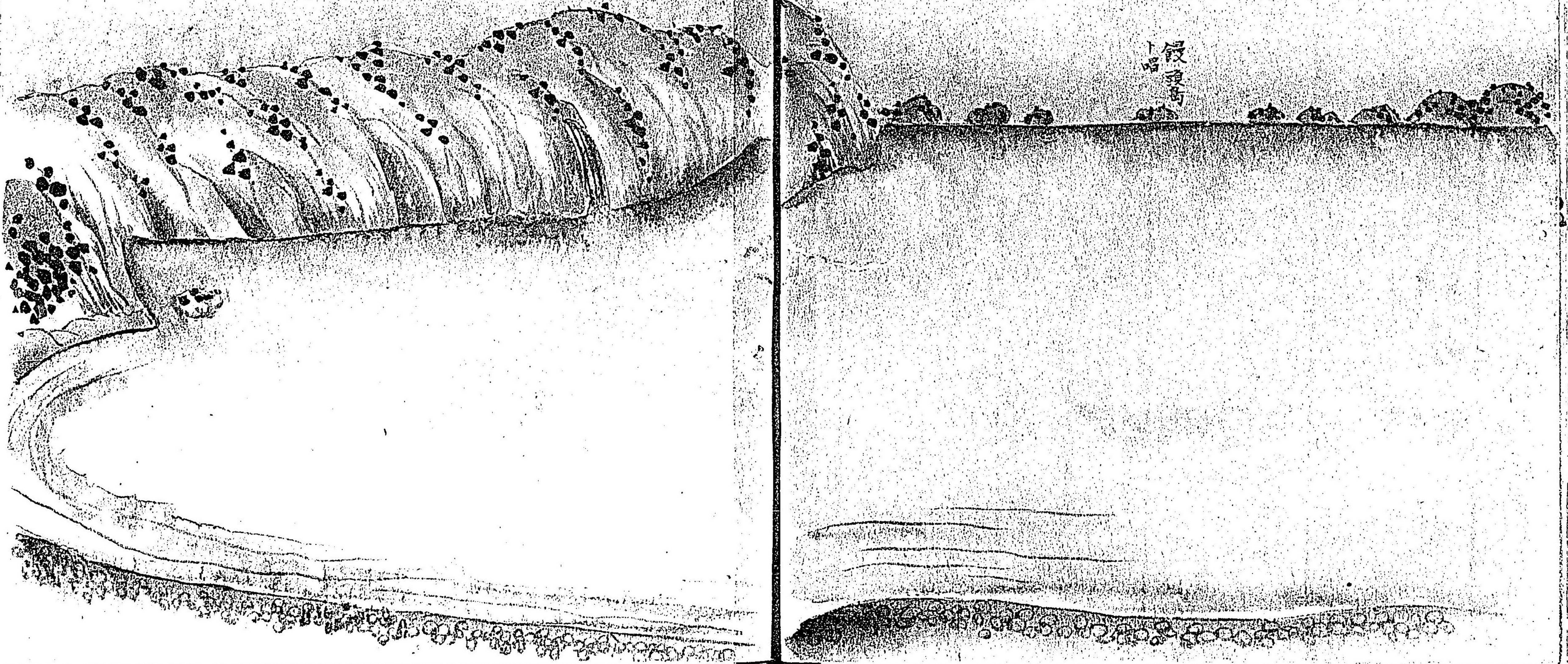
母島沖村ニ
おんくゝ
糸躍之図



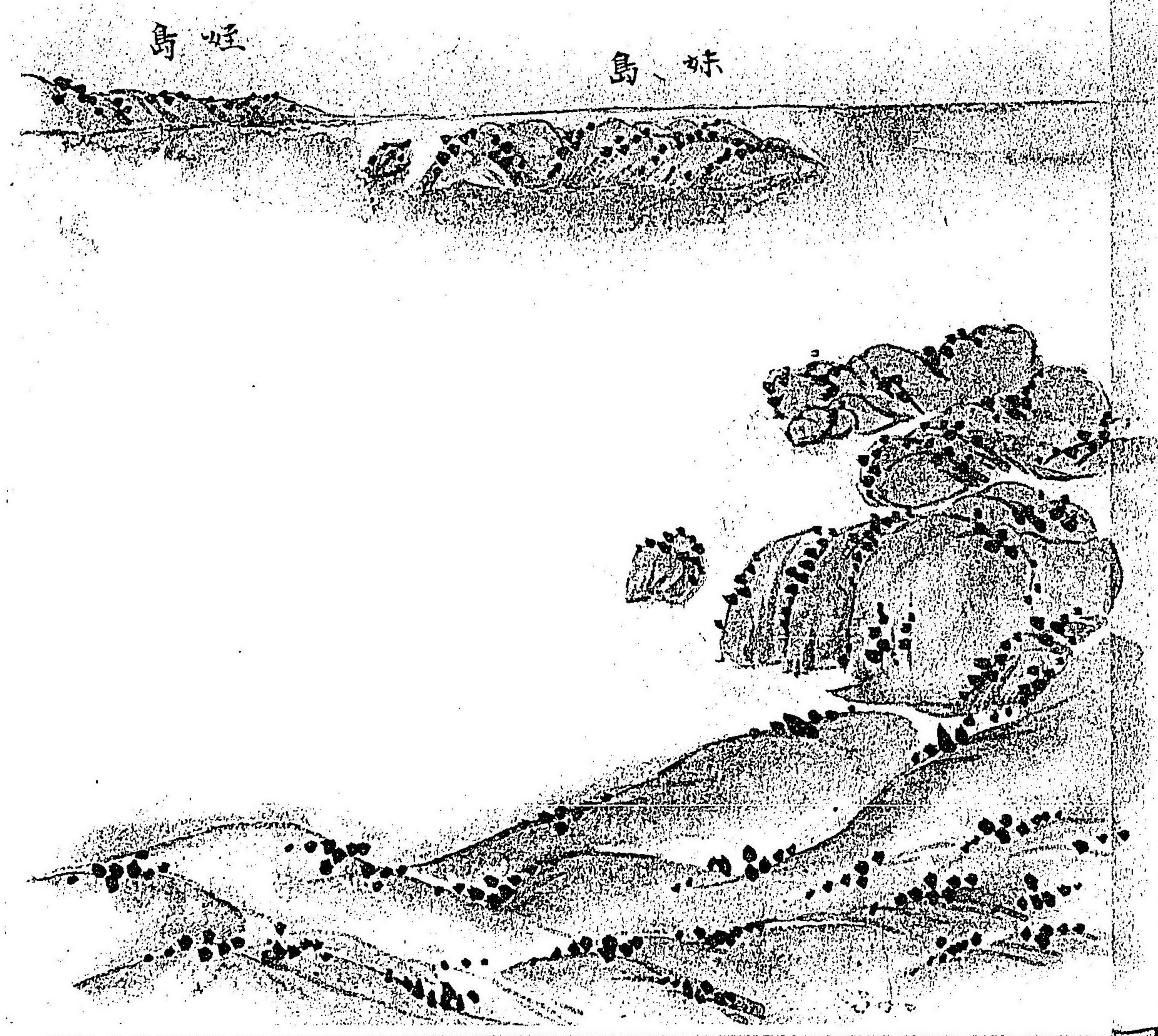
か島の内
沖村港湾中
西の方飯下崎
早瀬の一方を
観望す

港晴日候けり
水洞

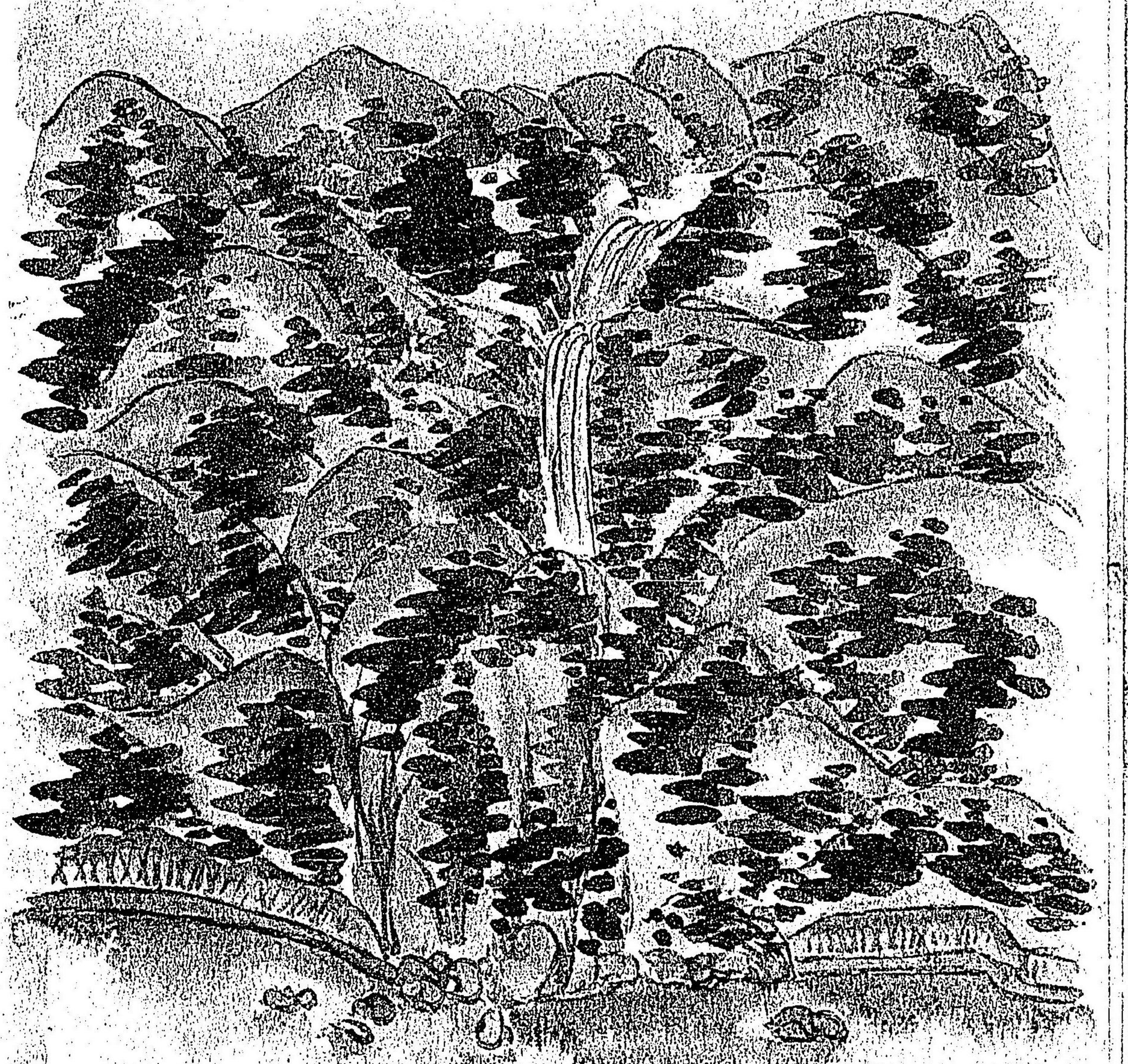
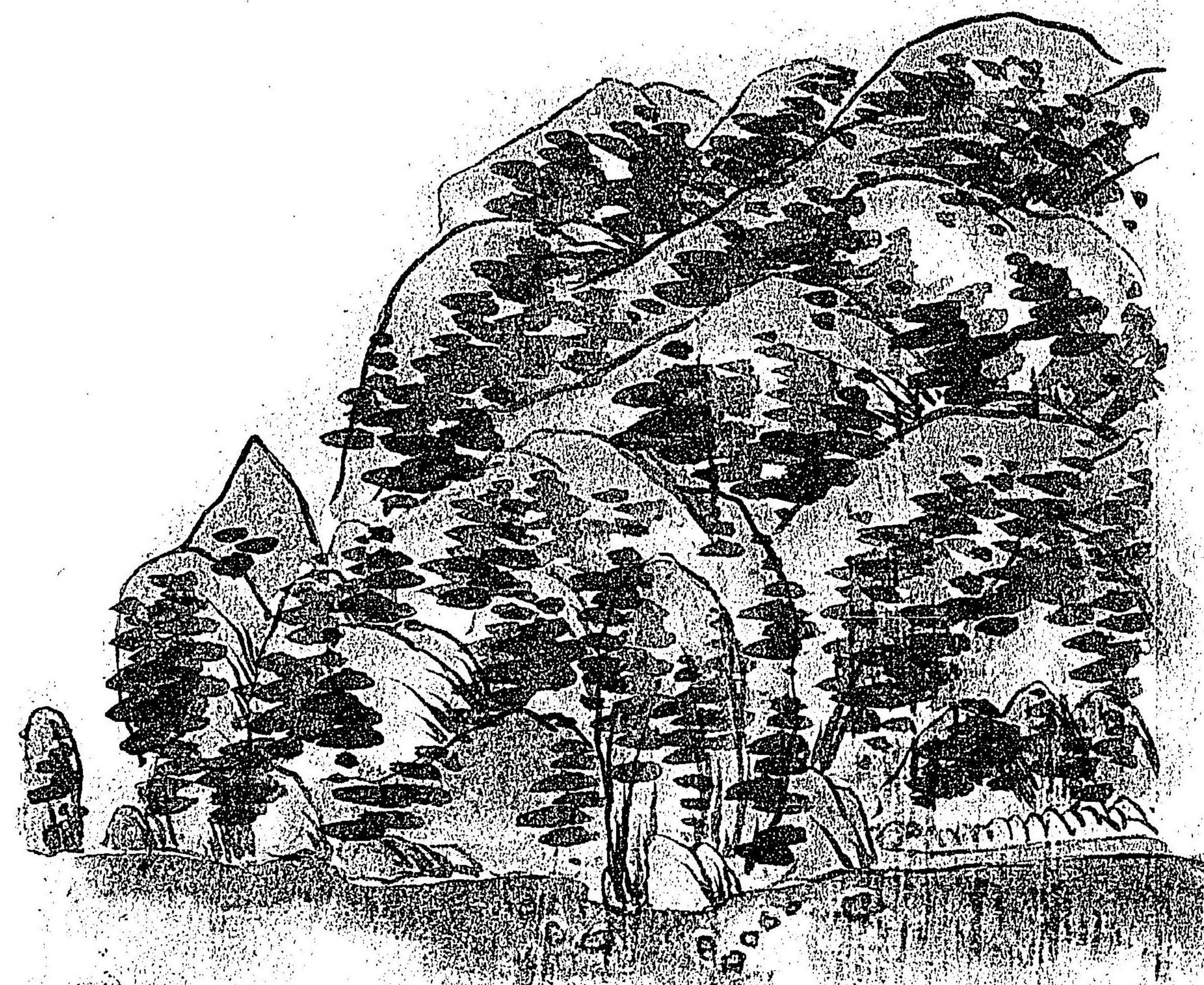
飯下崎



母島の内
沖村の北乳房山より
南望の図



初瀬浦を
海上より望
図

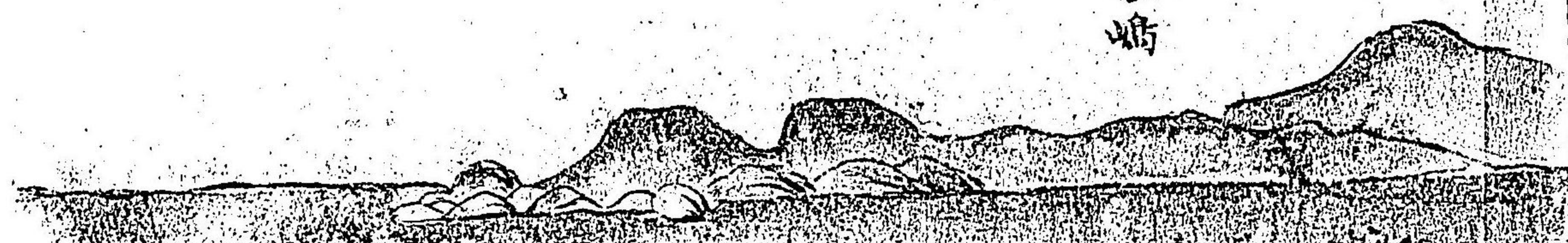
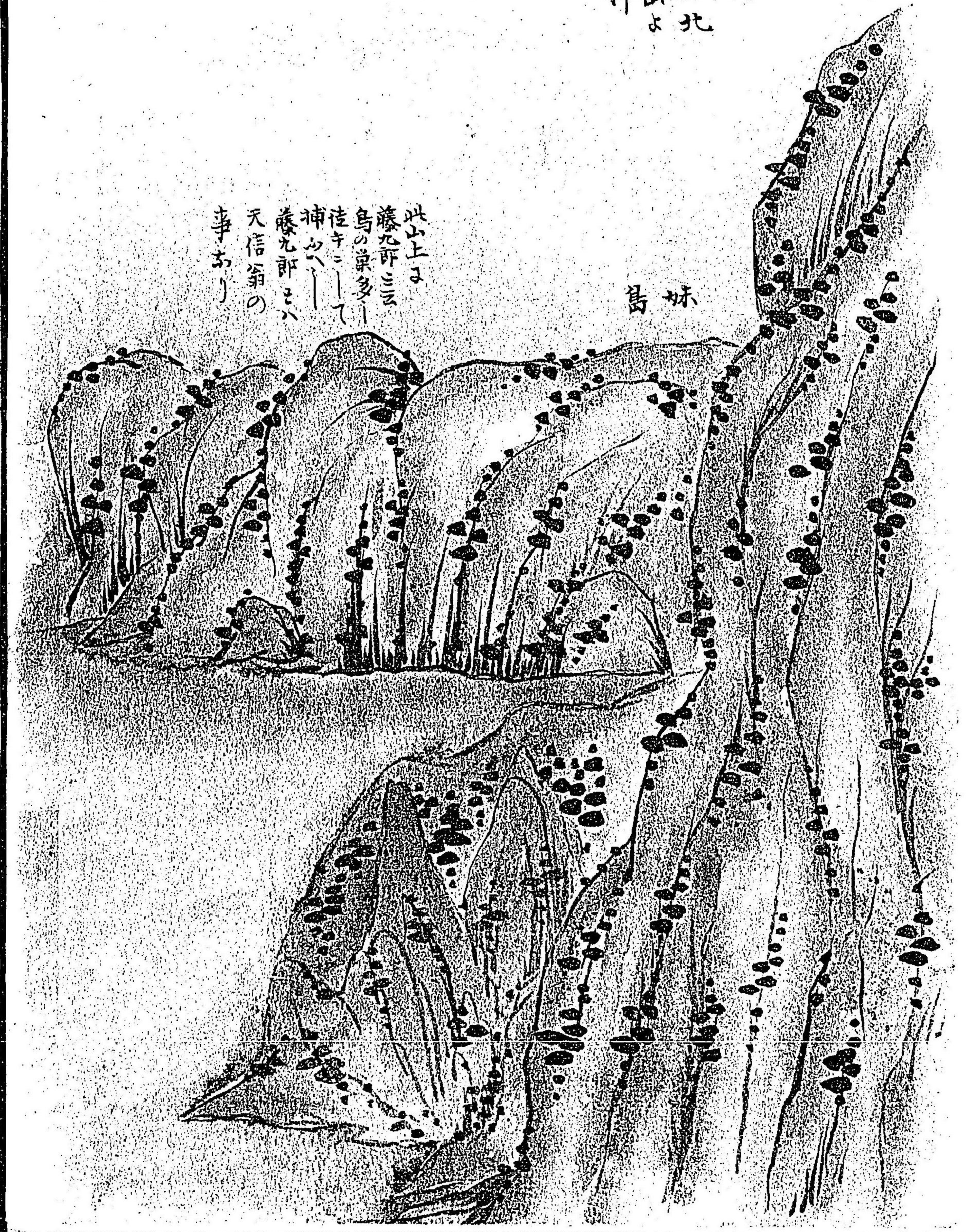


母島の内
沖村の北
乳房山よ
り東洋

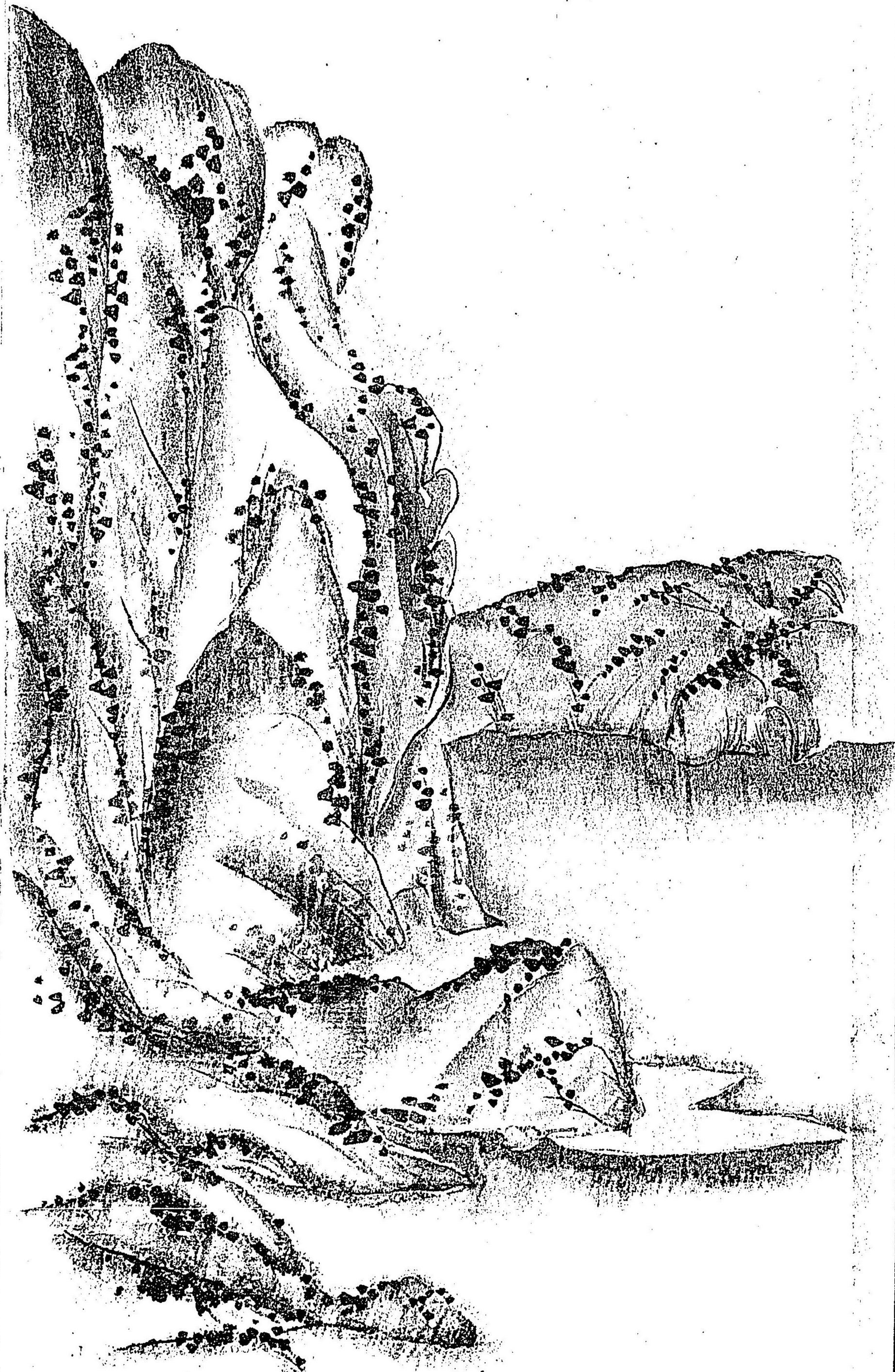
此山上に
藤の許に
鳥の巣多
く住まへ
て
神の
藤九郎と
天信翁の
事あり

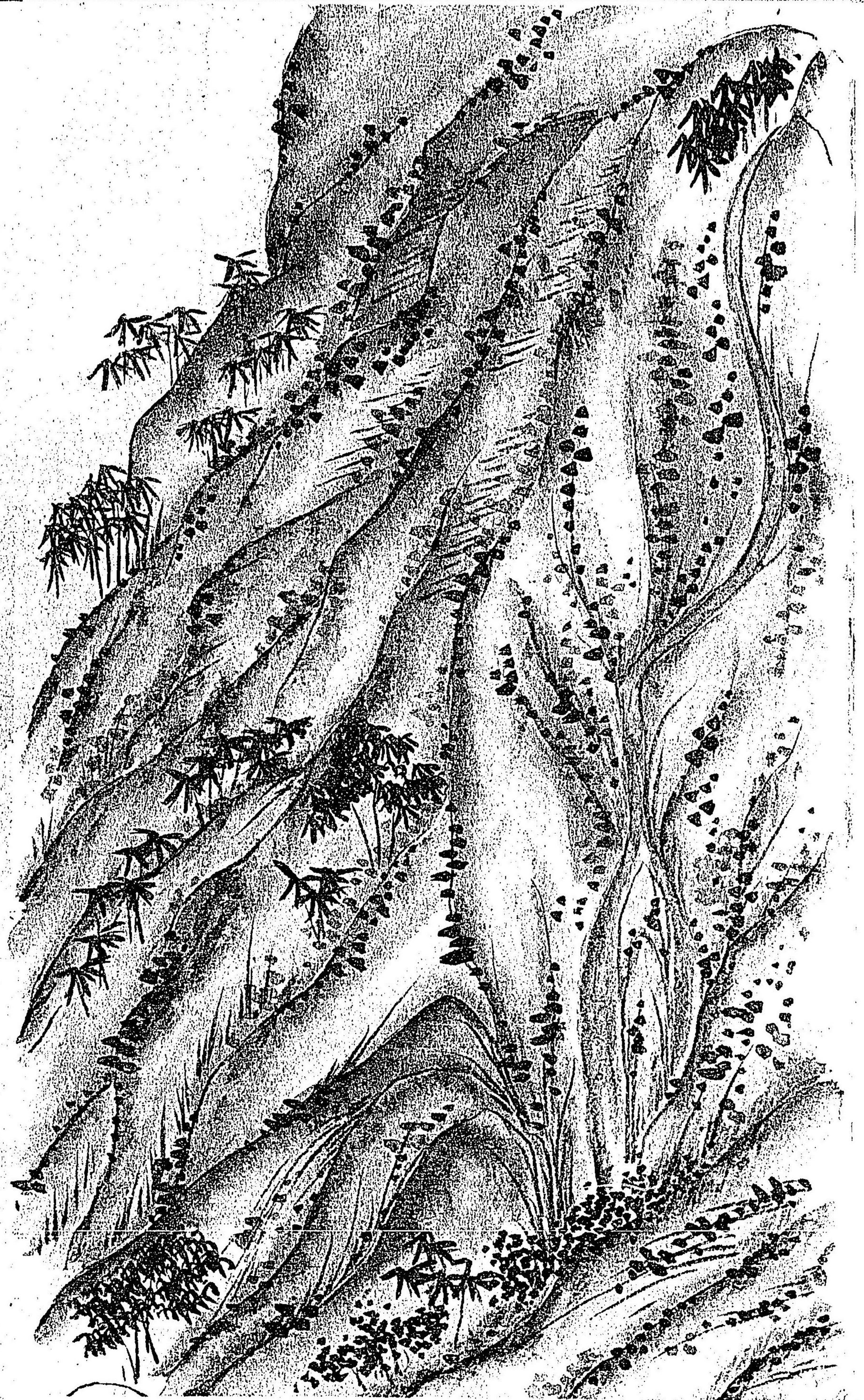
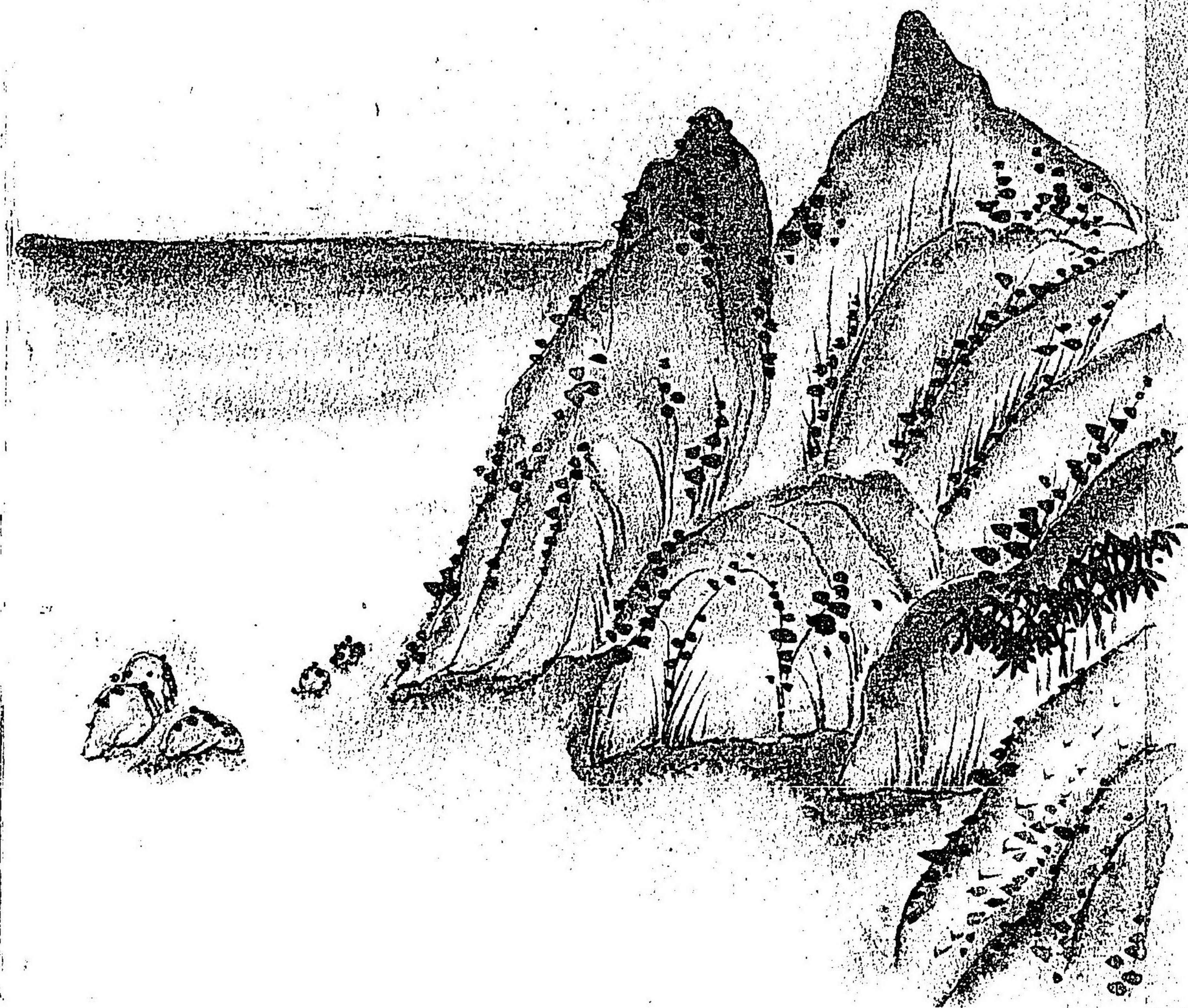
島村

怪嶋



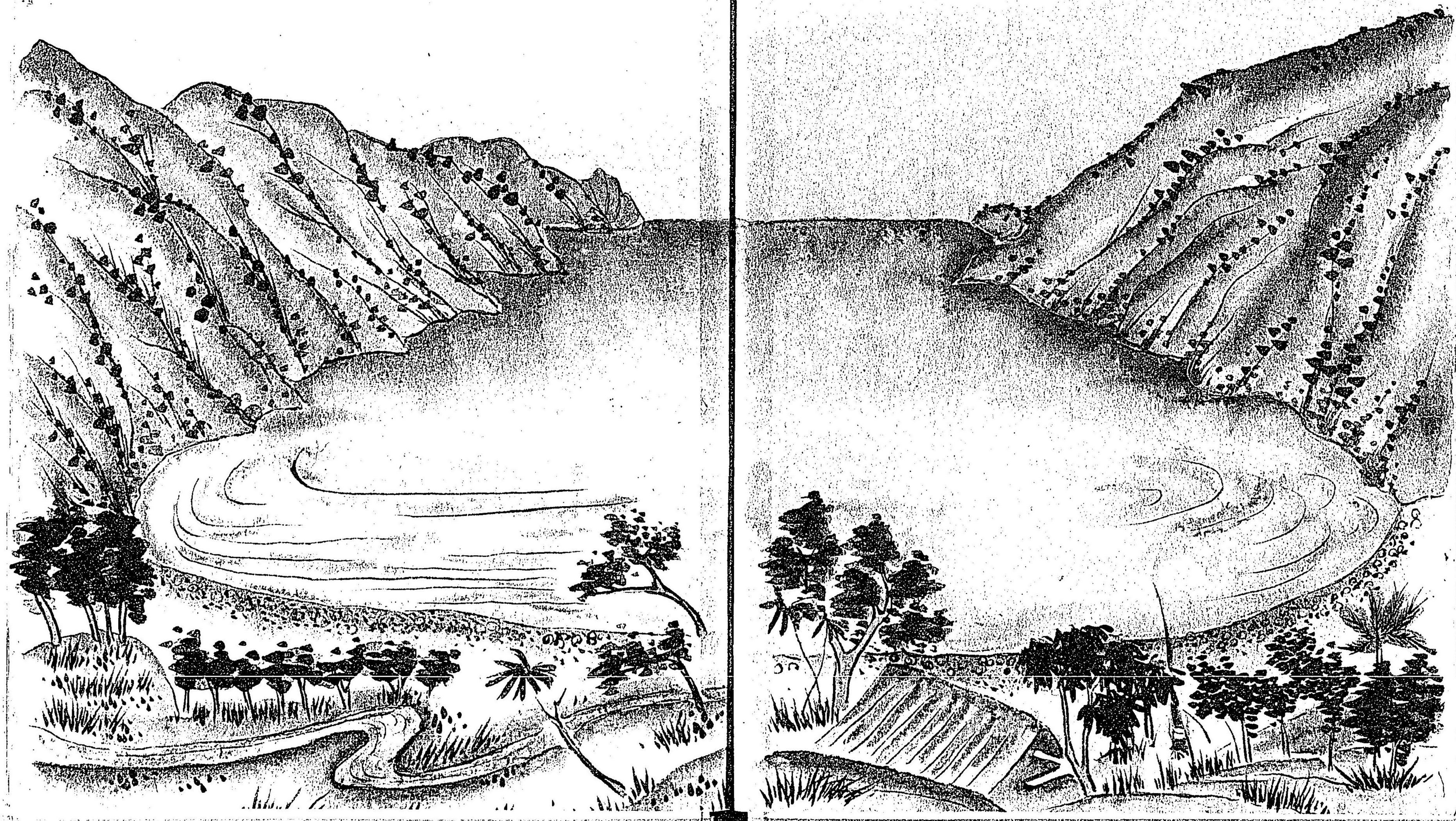
其二
同上より左の方と見る





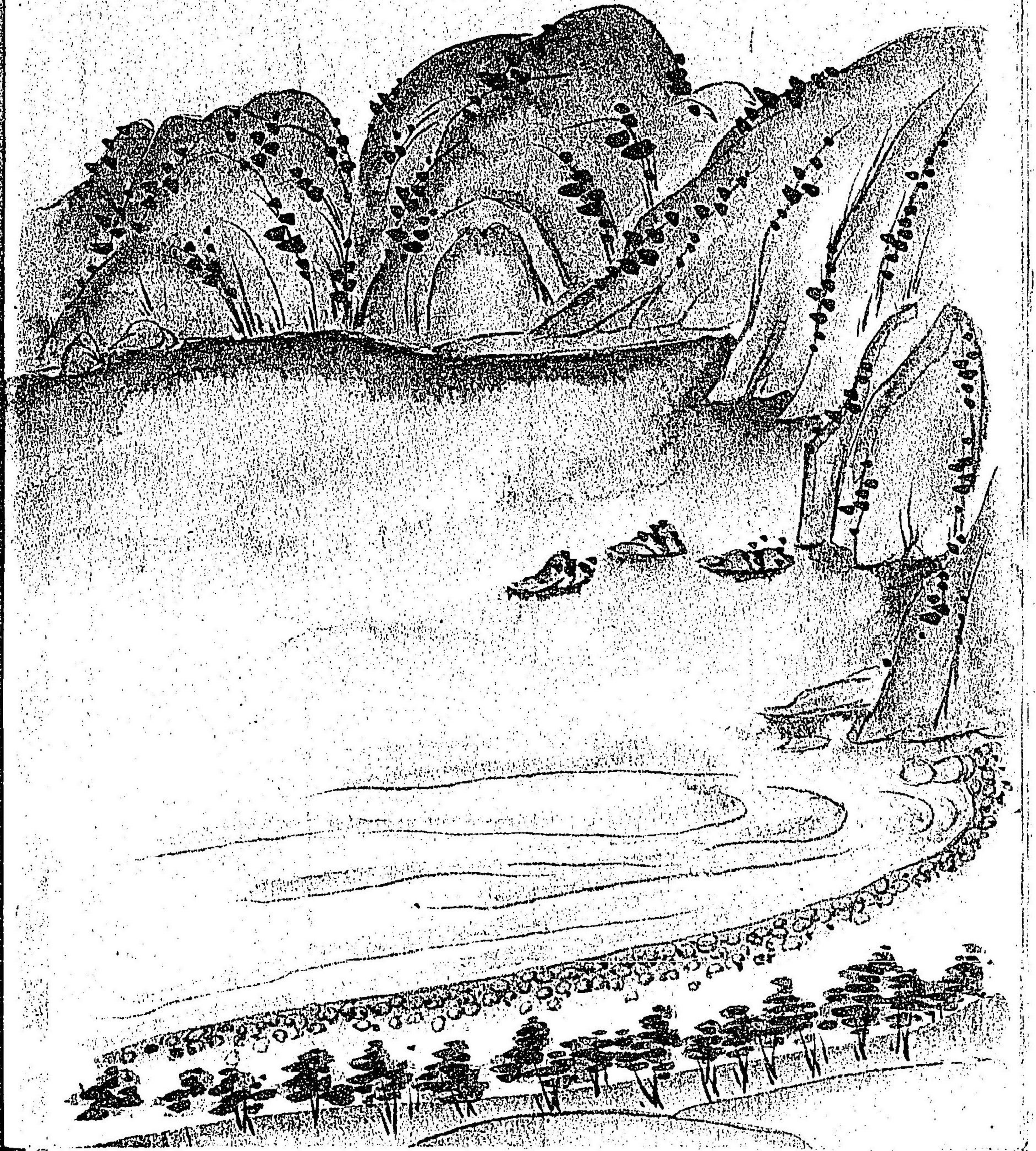
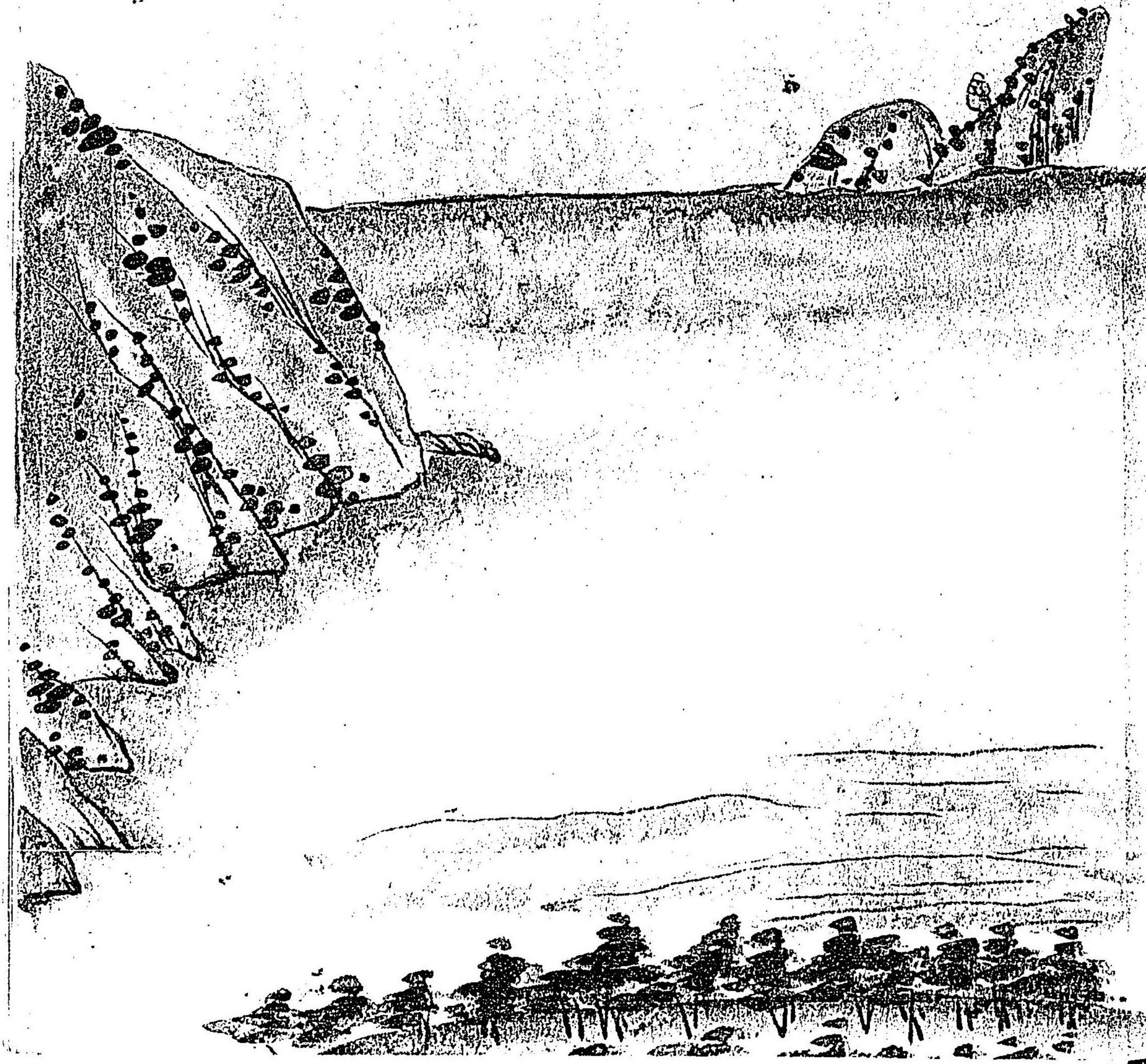
母島の内北港

二月廿日廿二日巡見の
節全権初の西夜此所
に露宿す
此辺野指多し一帰途
一日に四頭を得あり

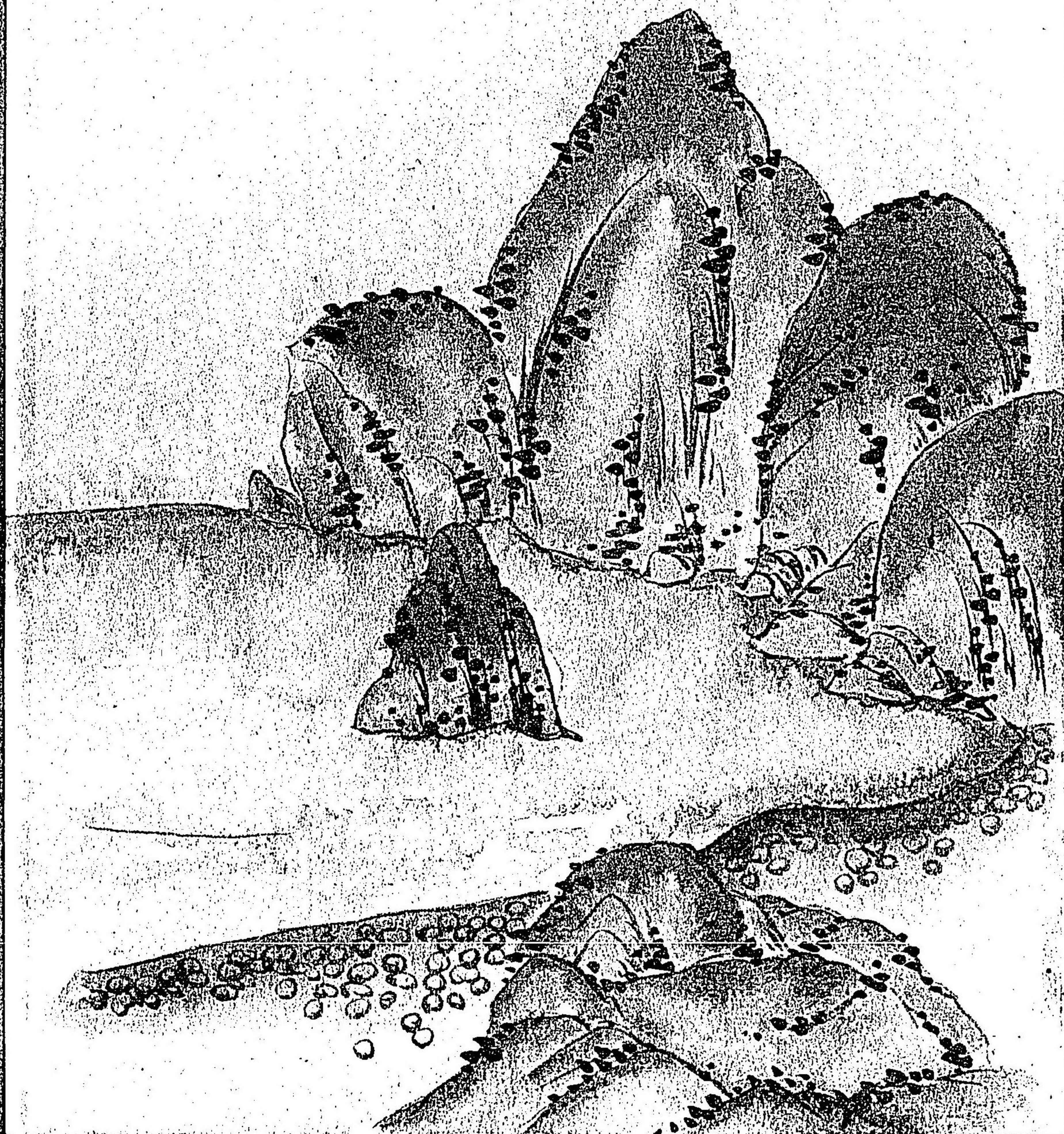
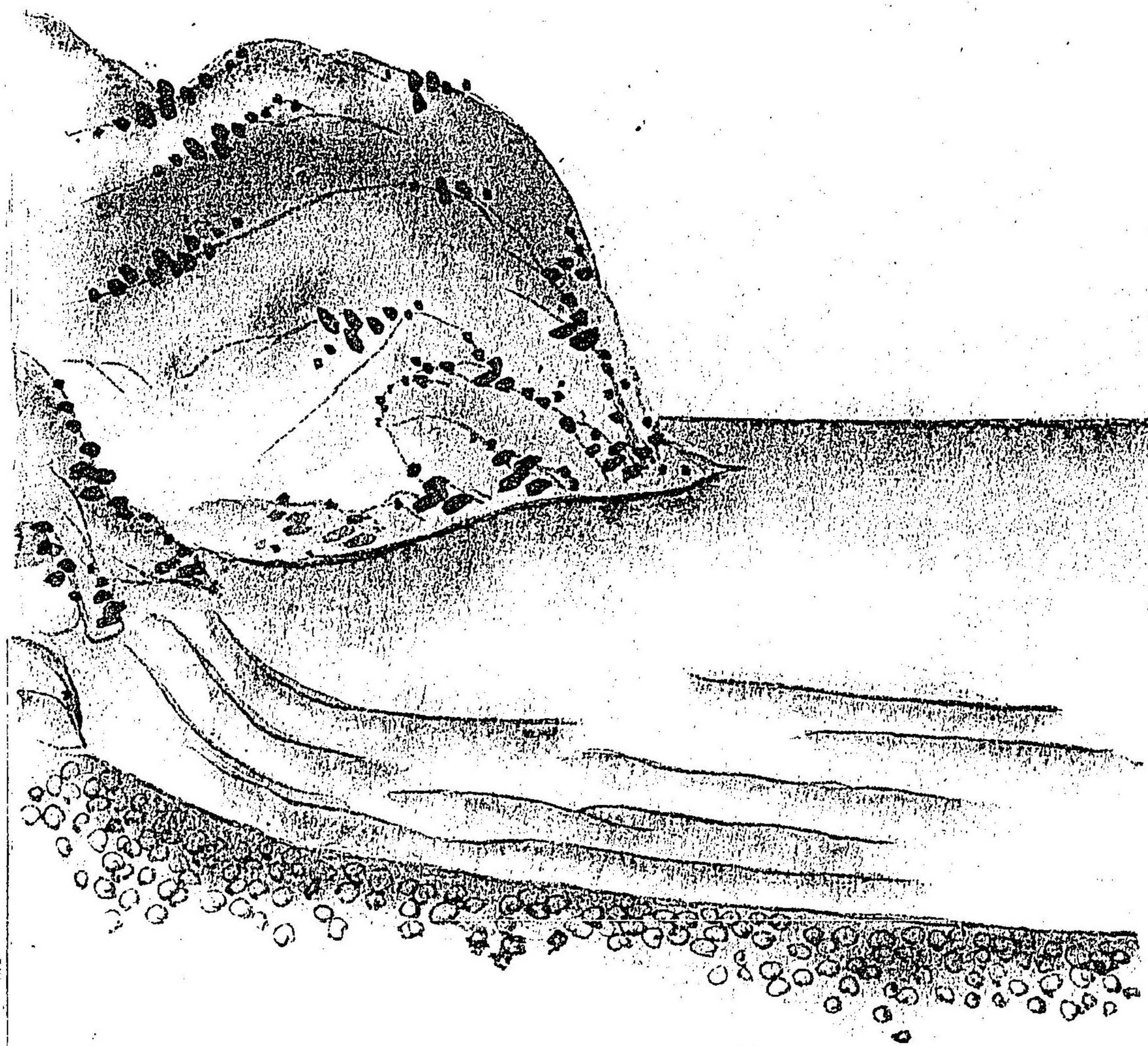


舟島の内
東港

古名所港と云
荒波にて小舟
寄難

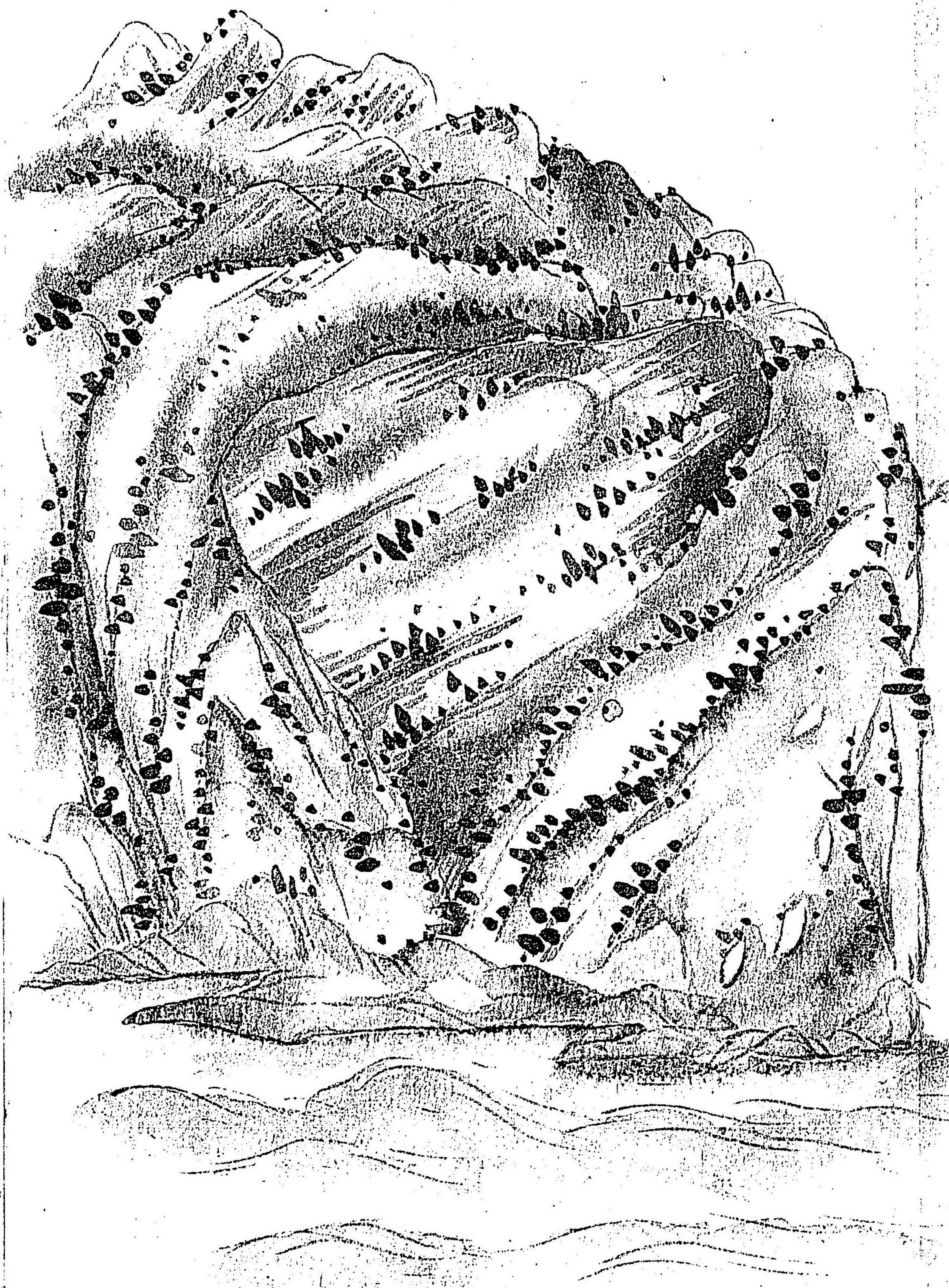
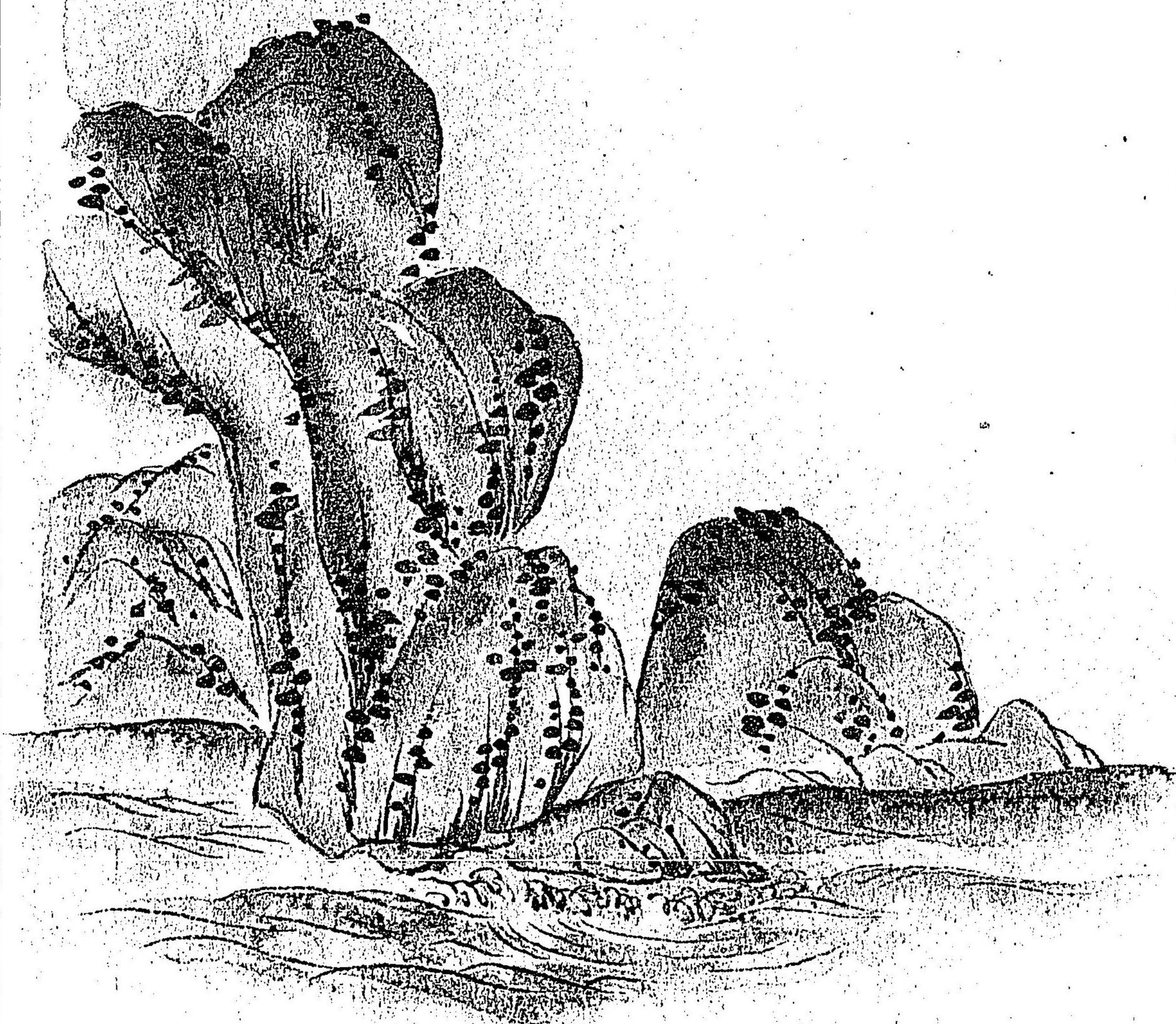


母島の内
西港の景



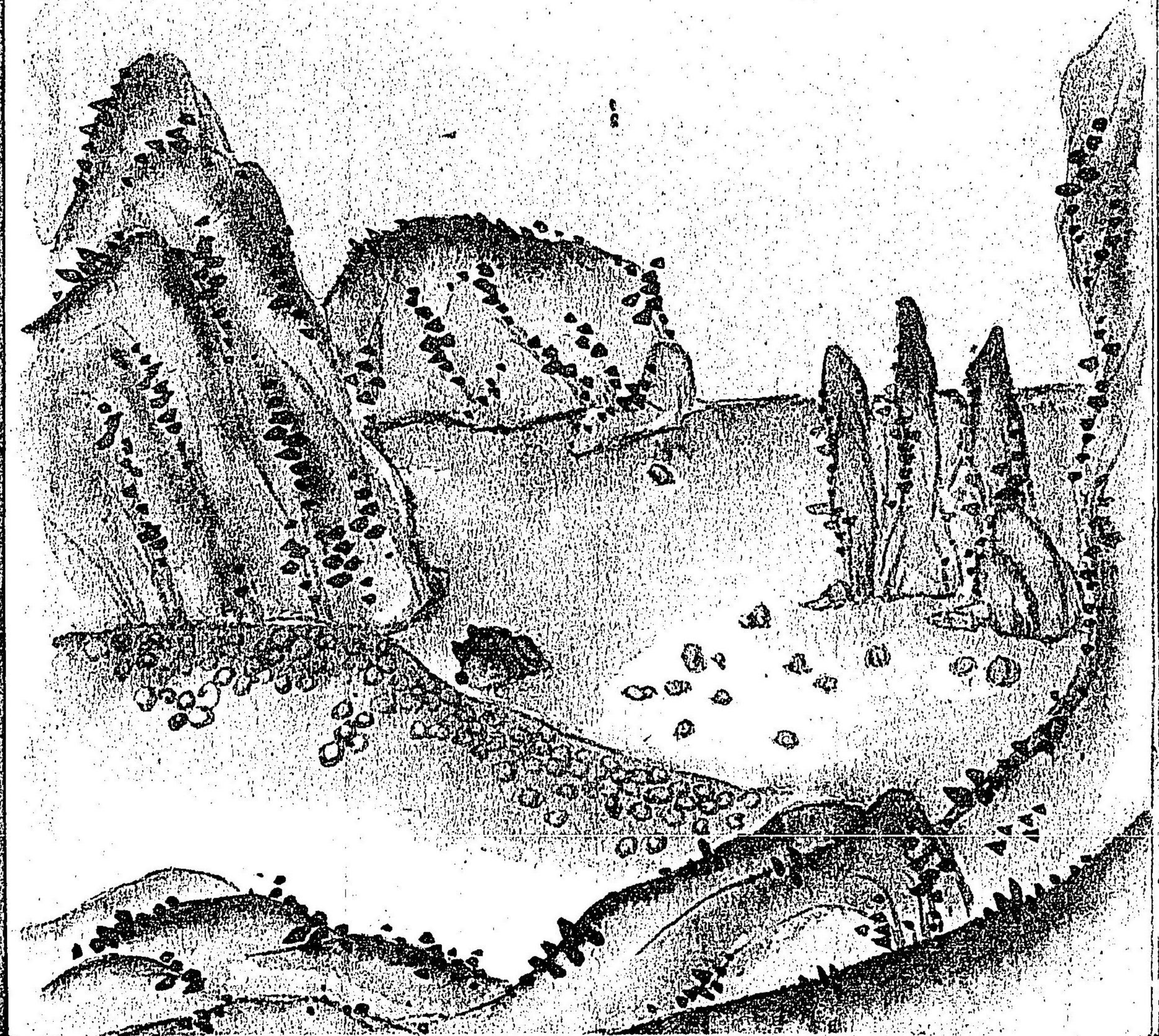
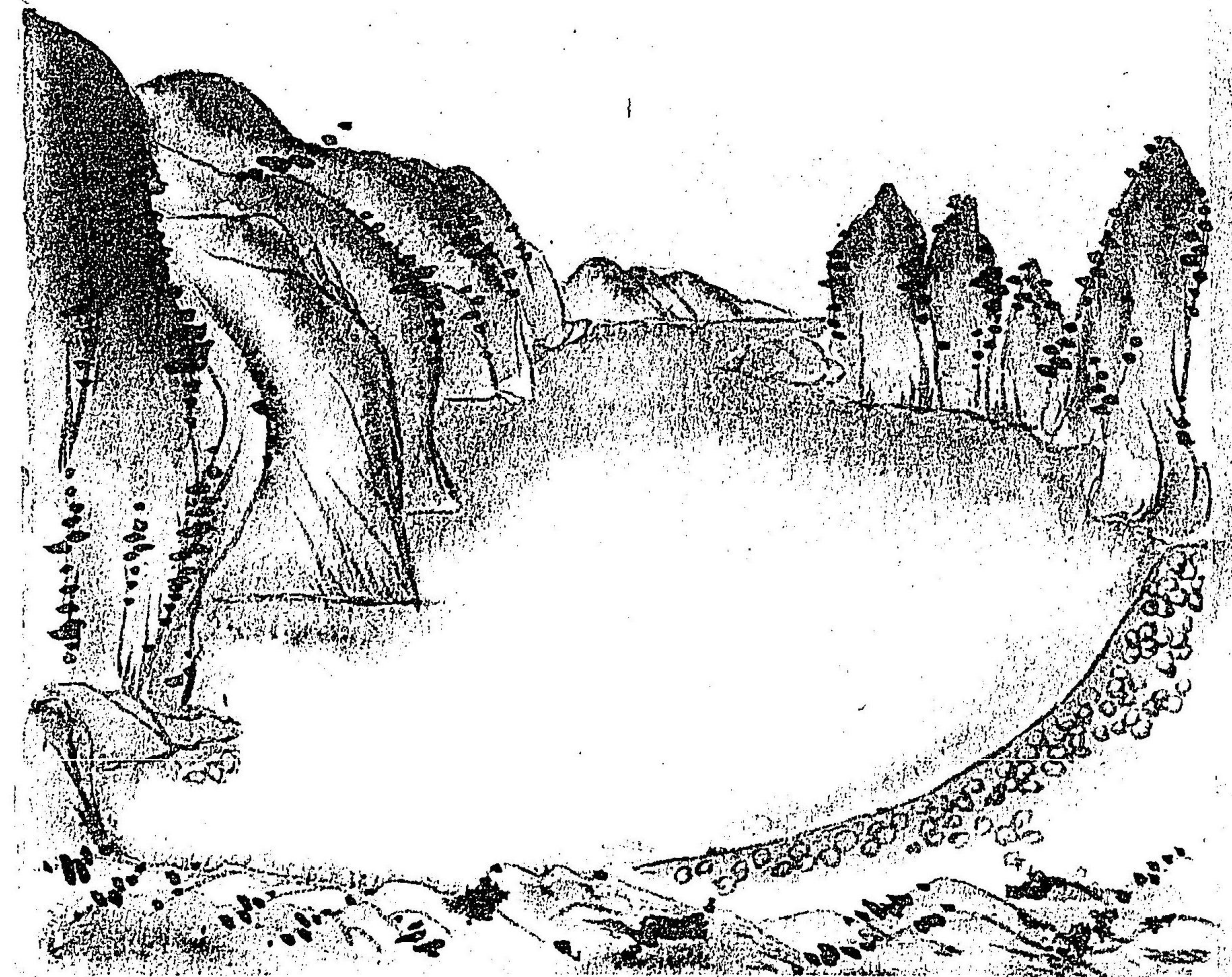
母島の内
東港の岬

石門あり高十丈幅
七八丈もゆき多
極波きて小舟寄難

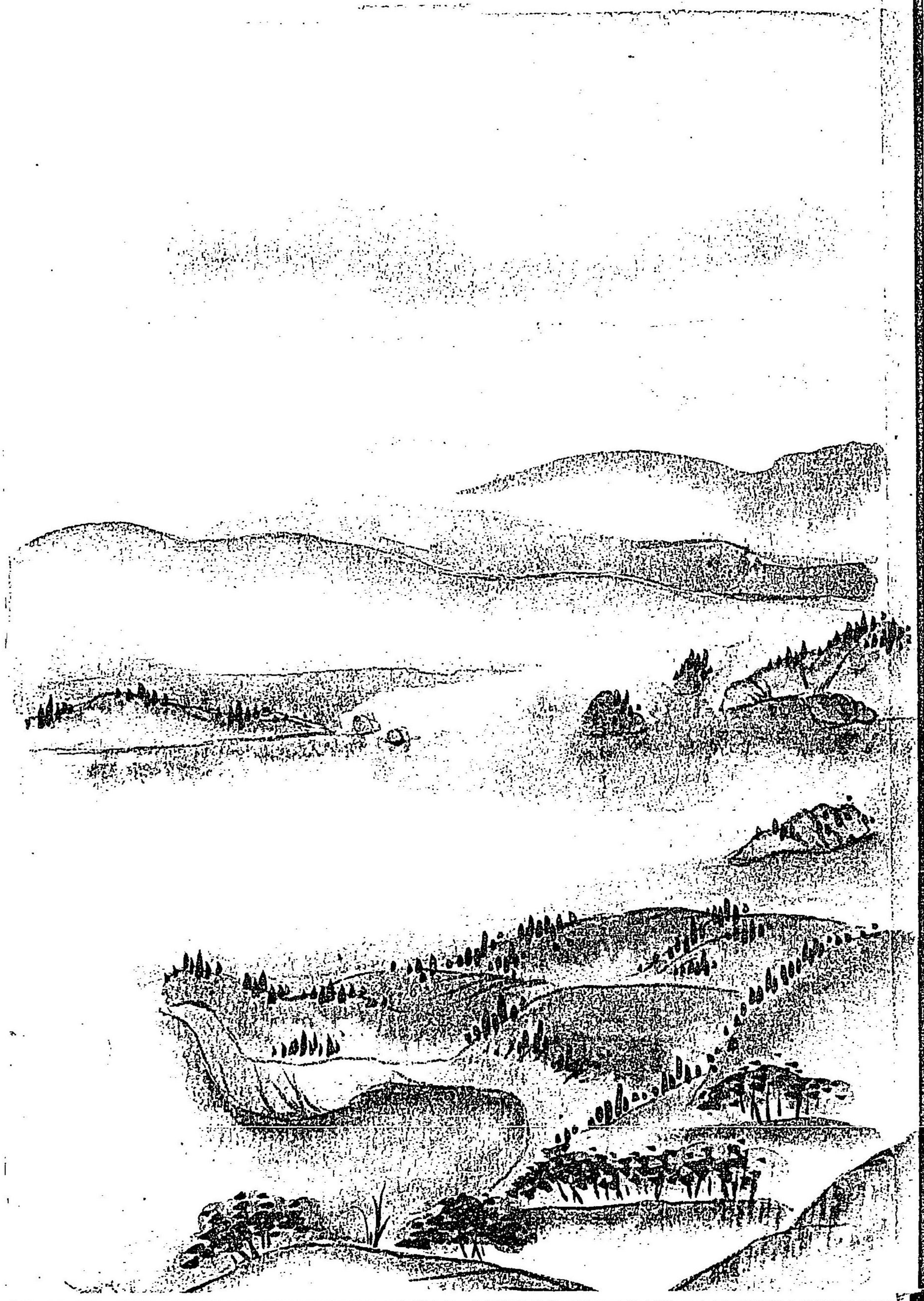


母島之内

二月十九日西全権
巡見ノ節南浦より
北の方向着船せし処



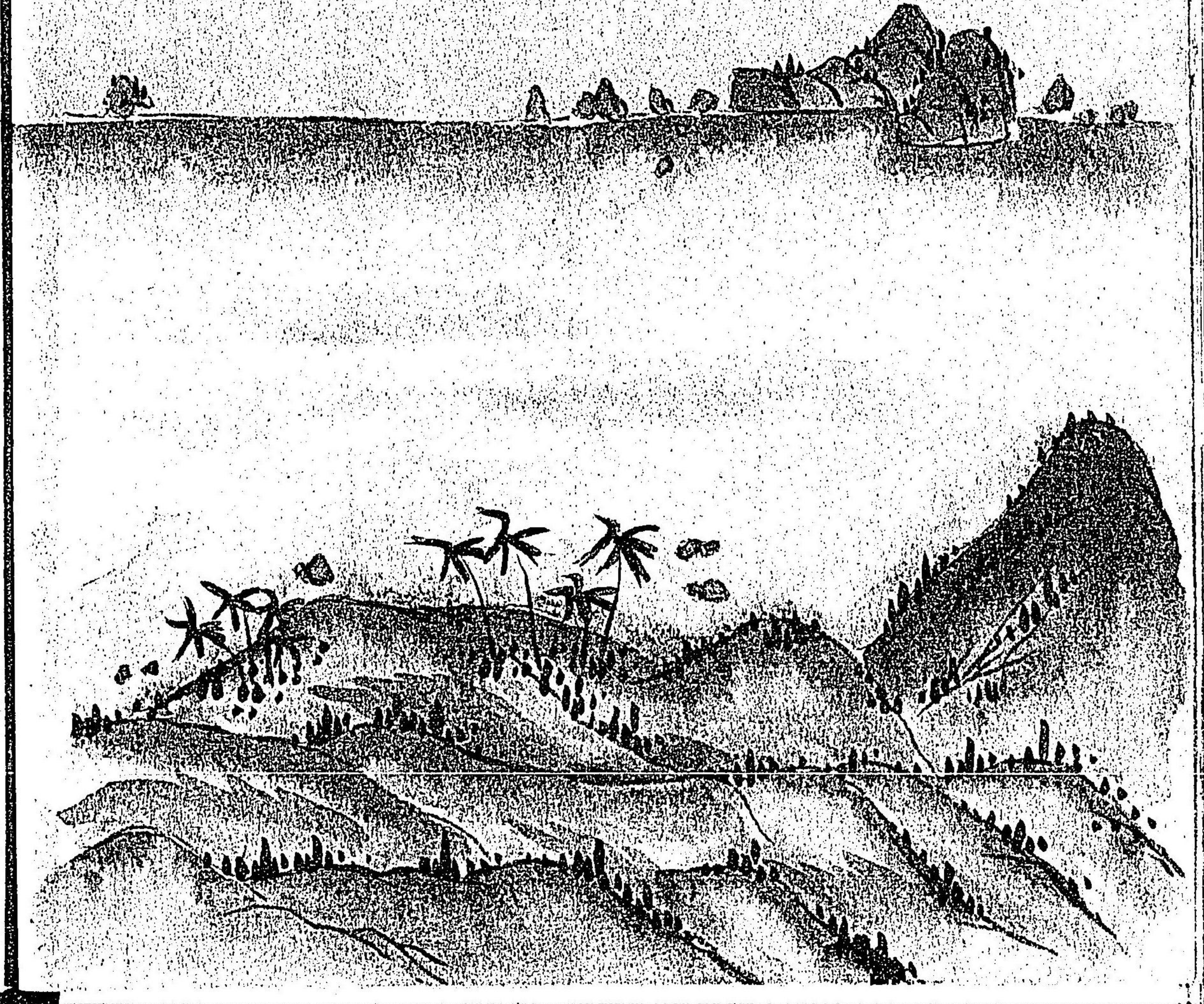
か島之内
南浦小富士山
頂上より西北の
方を見る



母島之内

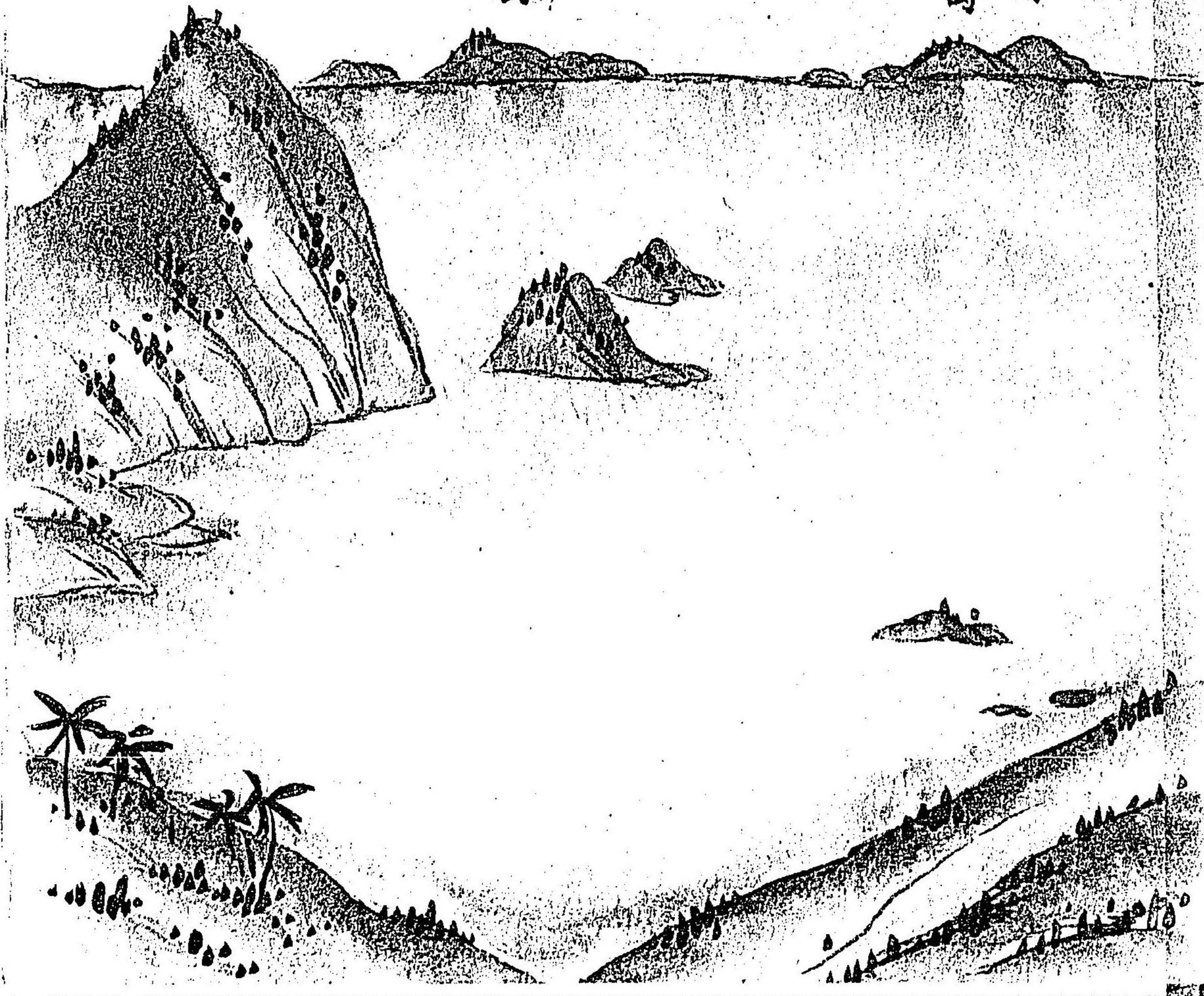
二月廿日巡見之節
平島西の方山上より
東南に向て姉
妹諸島を見たり

姉島



妹島

姪島

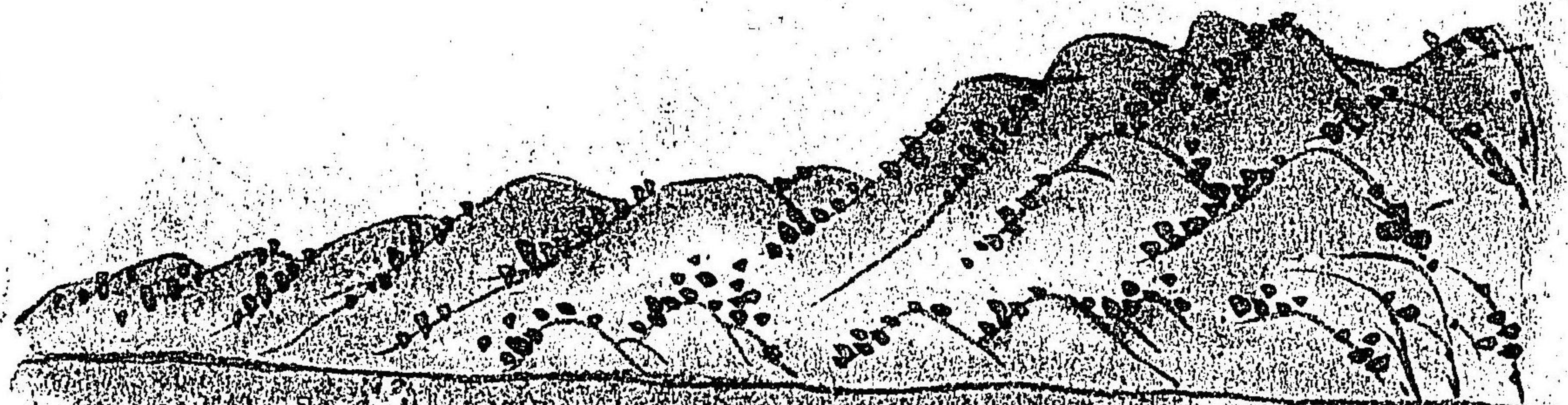


母島属島平島

北の方山上より東北の方母島を眺望す

衆島周圍より湾中の如く、鋭角多く尾端にて潮波を打音、数里の外に響く其様、望中の附を、見ると似多し。





母島

属島之内

向島

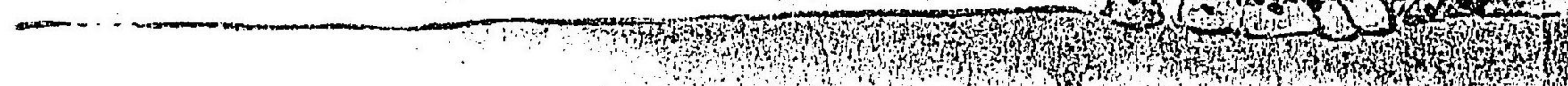
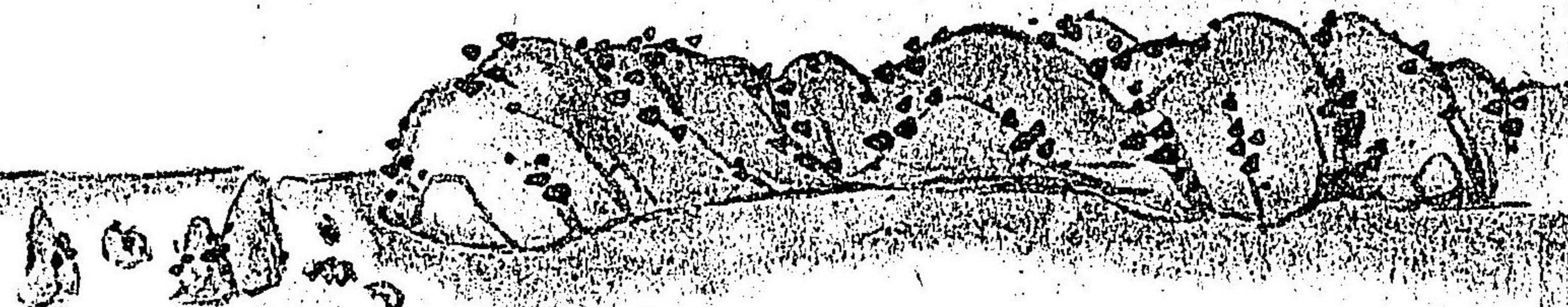
正寅の方

海上より

望



姉島
平島を
寅の方
山上より
未の方
二向て
見ろ



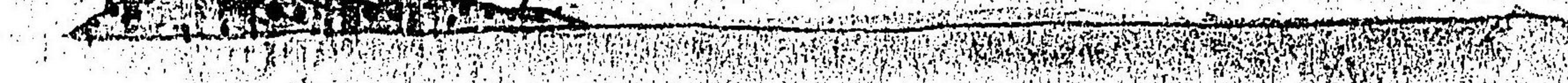
平島は寅の
方山上より
望むと見る

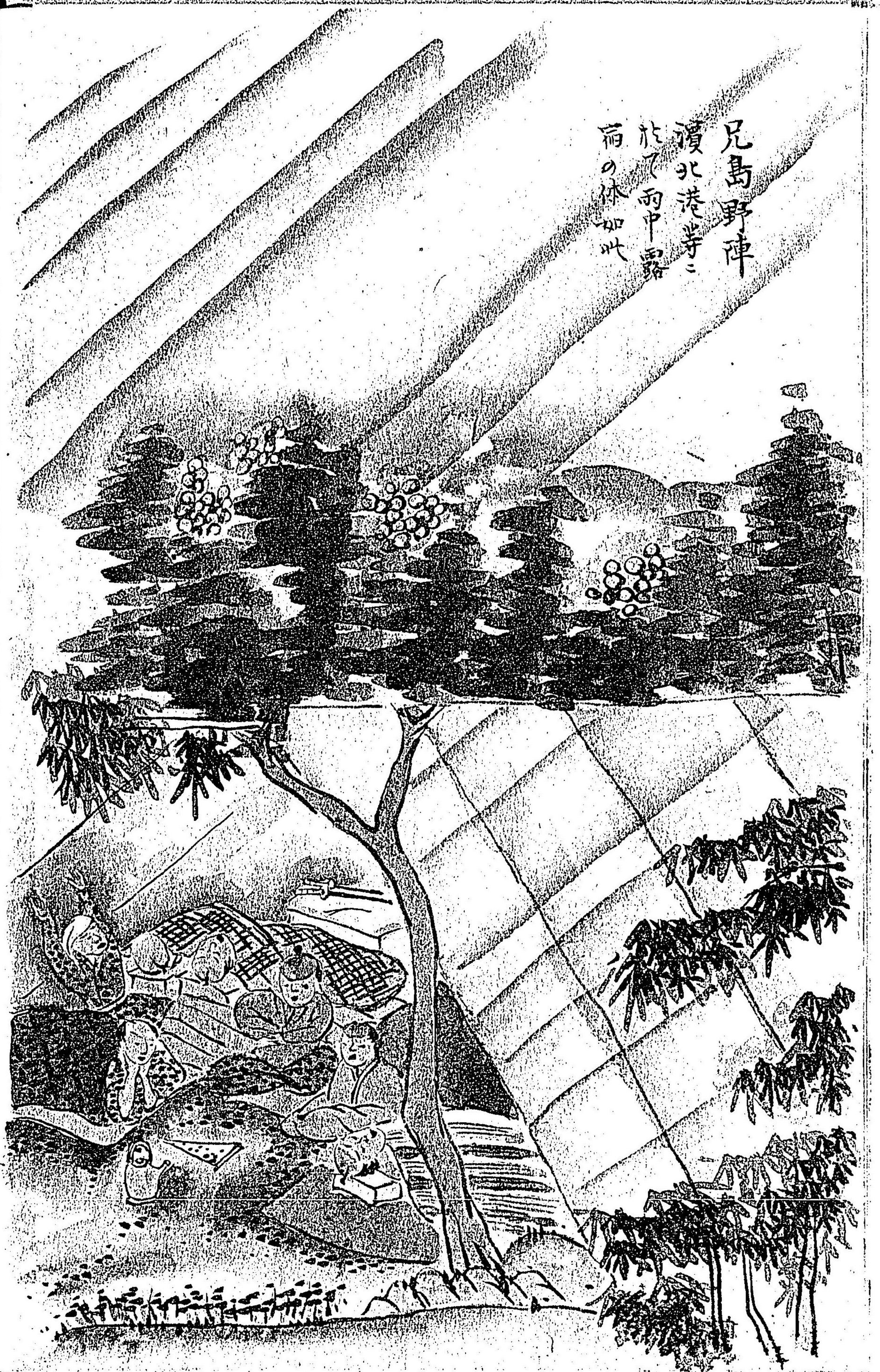
妹島



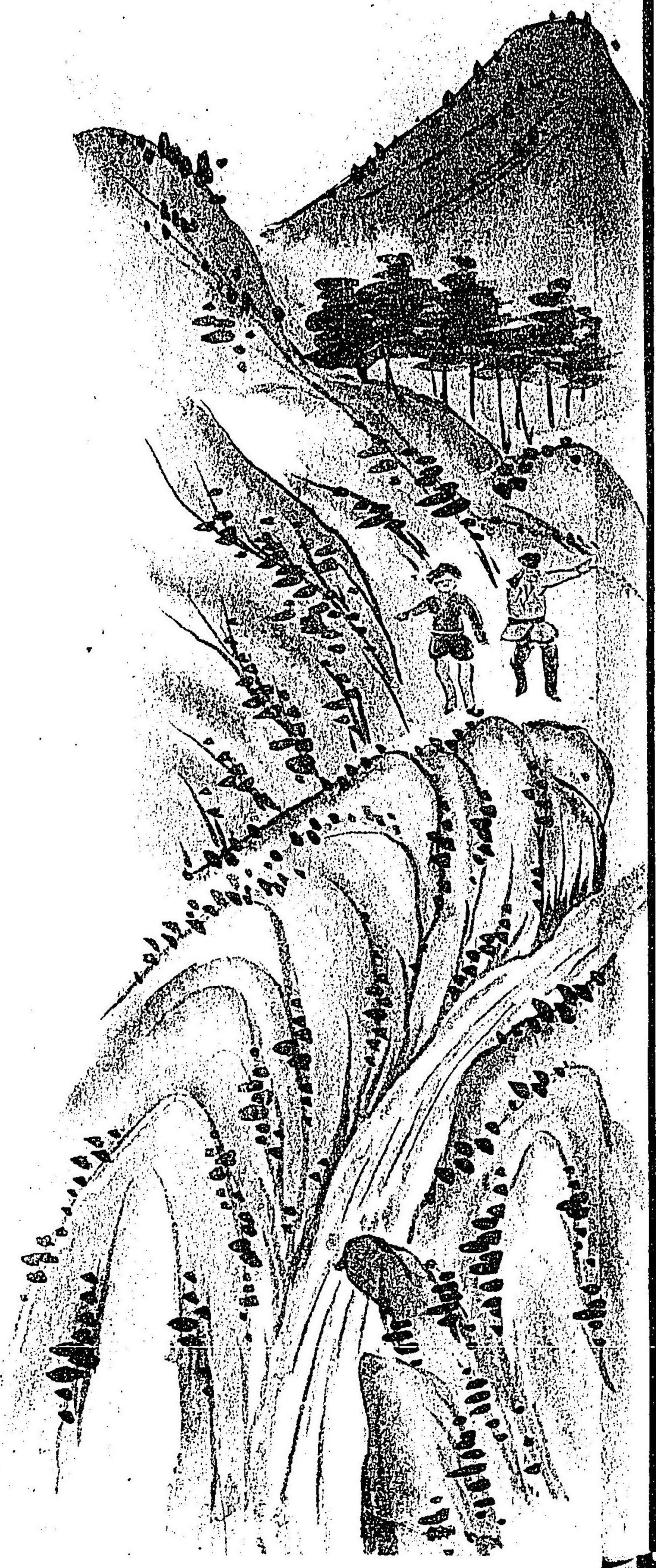
煙島

同所より
卯辰の
方に見る

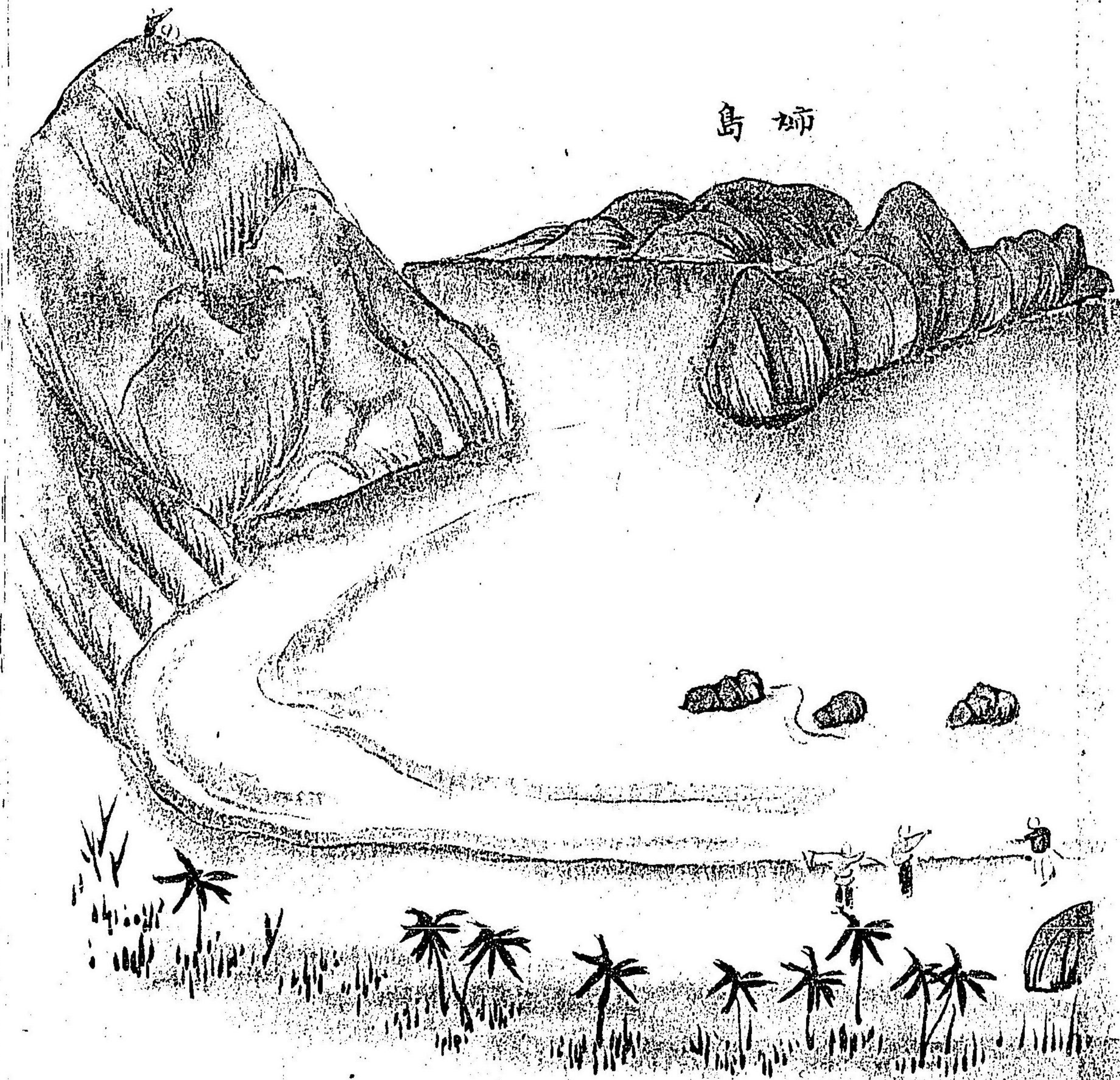




兄島野陣
瀆北港等
於雨中露
宿の休如此



母島南浦の図 補



母島山上北望父島之神

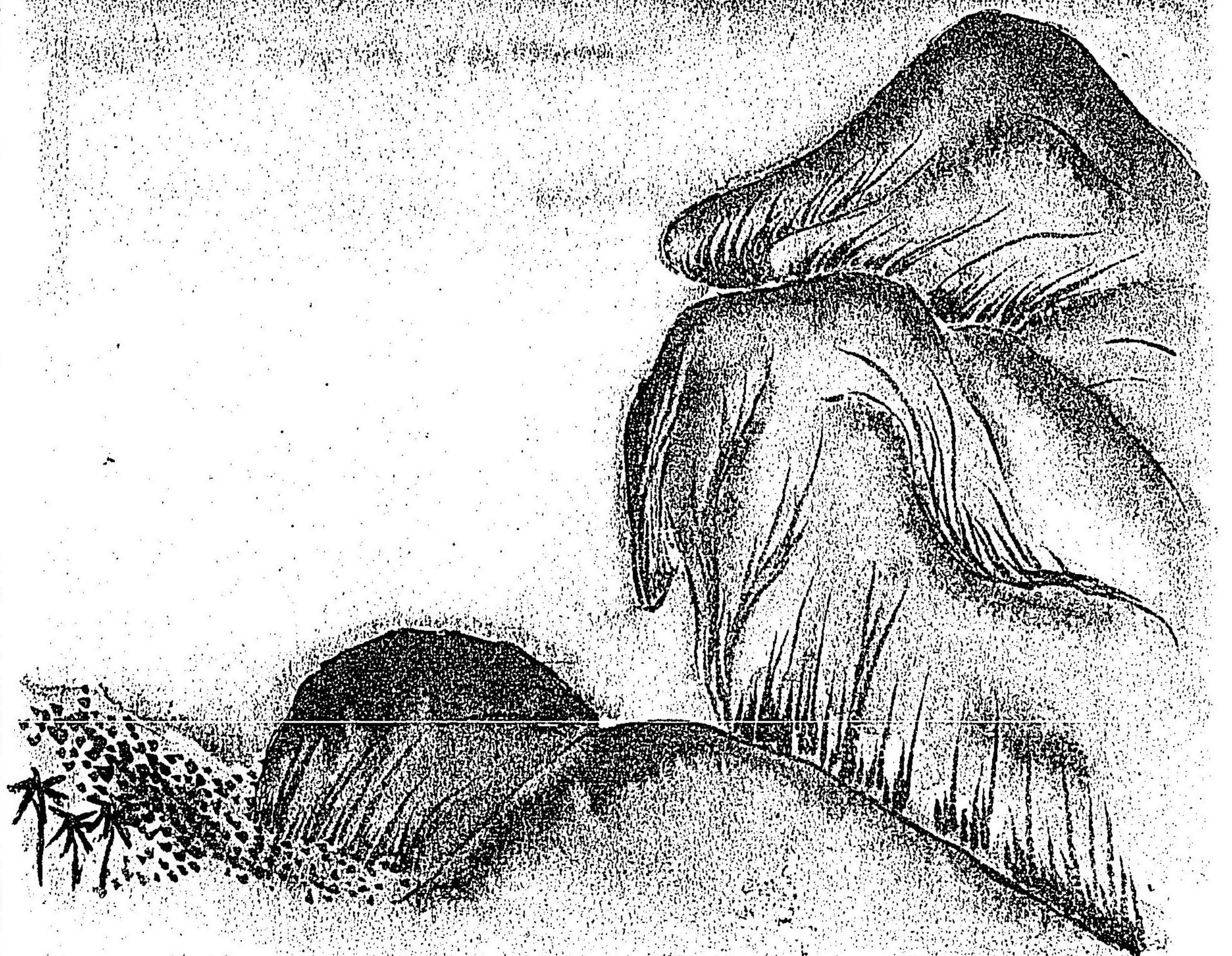


父島



母島

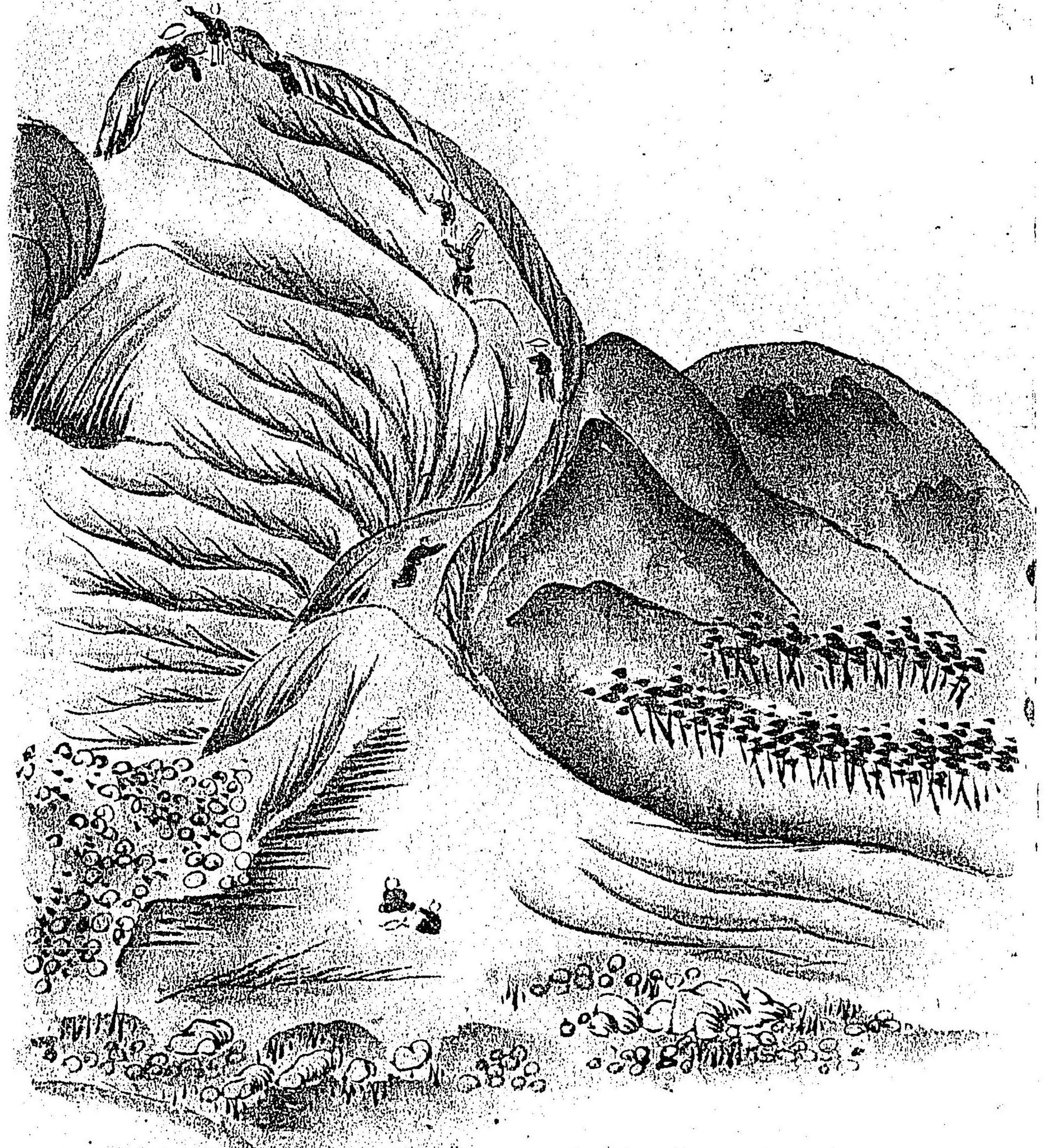
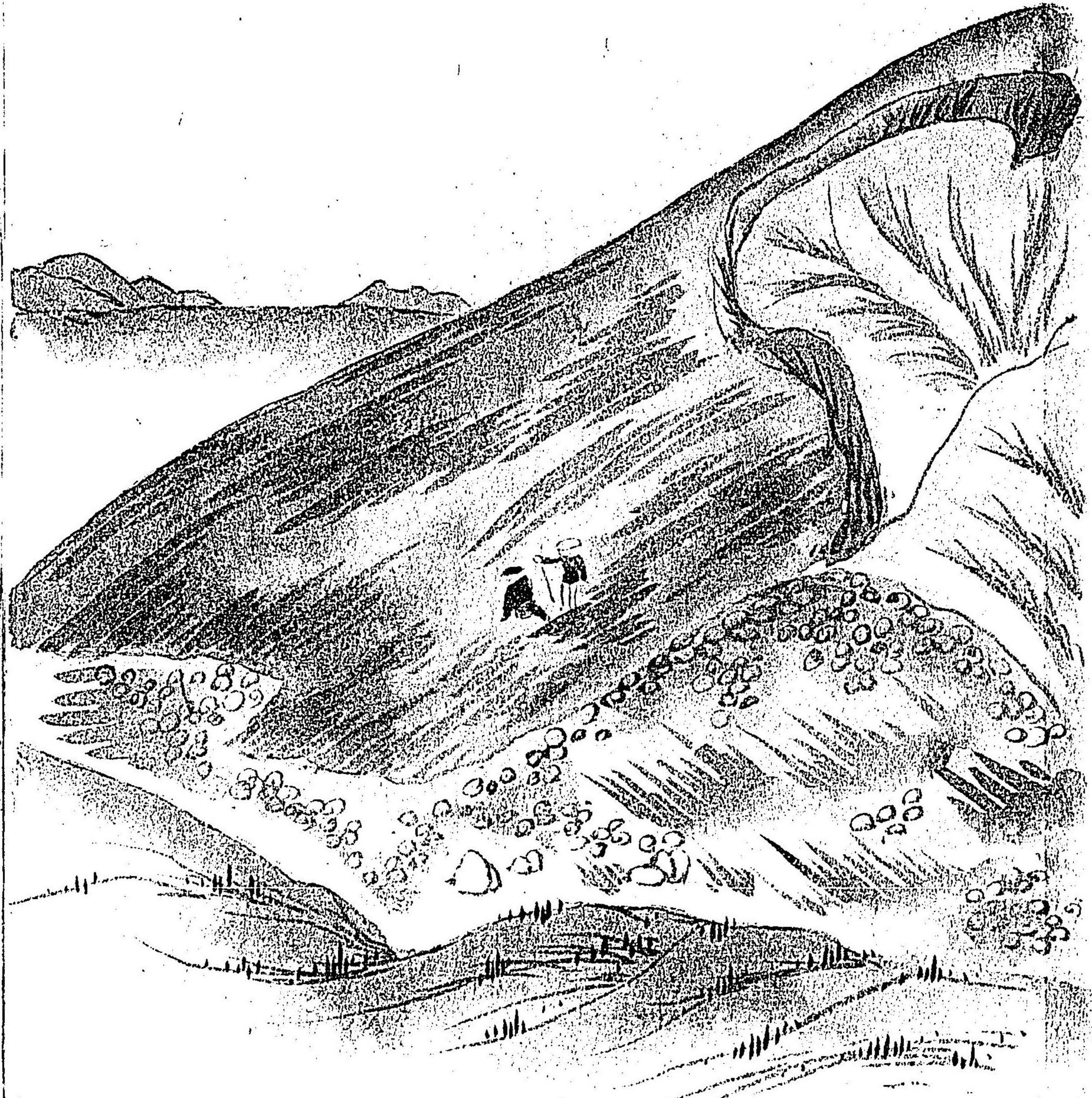
丹島北村後山神
上眺望之圖



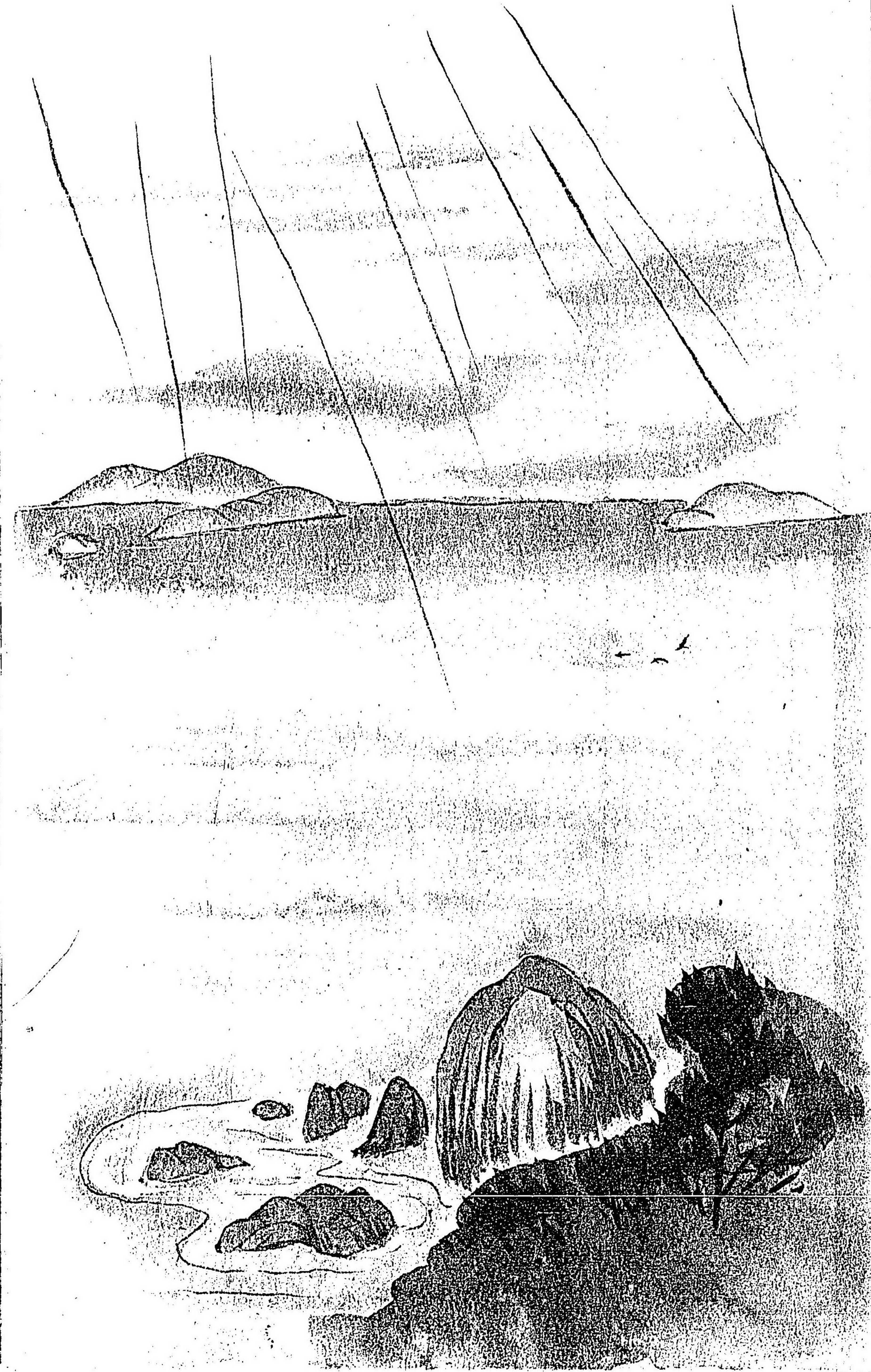
母島北村港左之方
灣中眺望之圖補



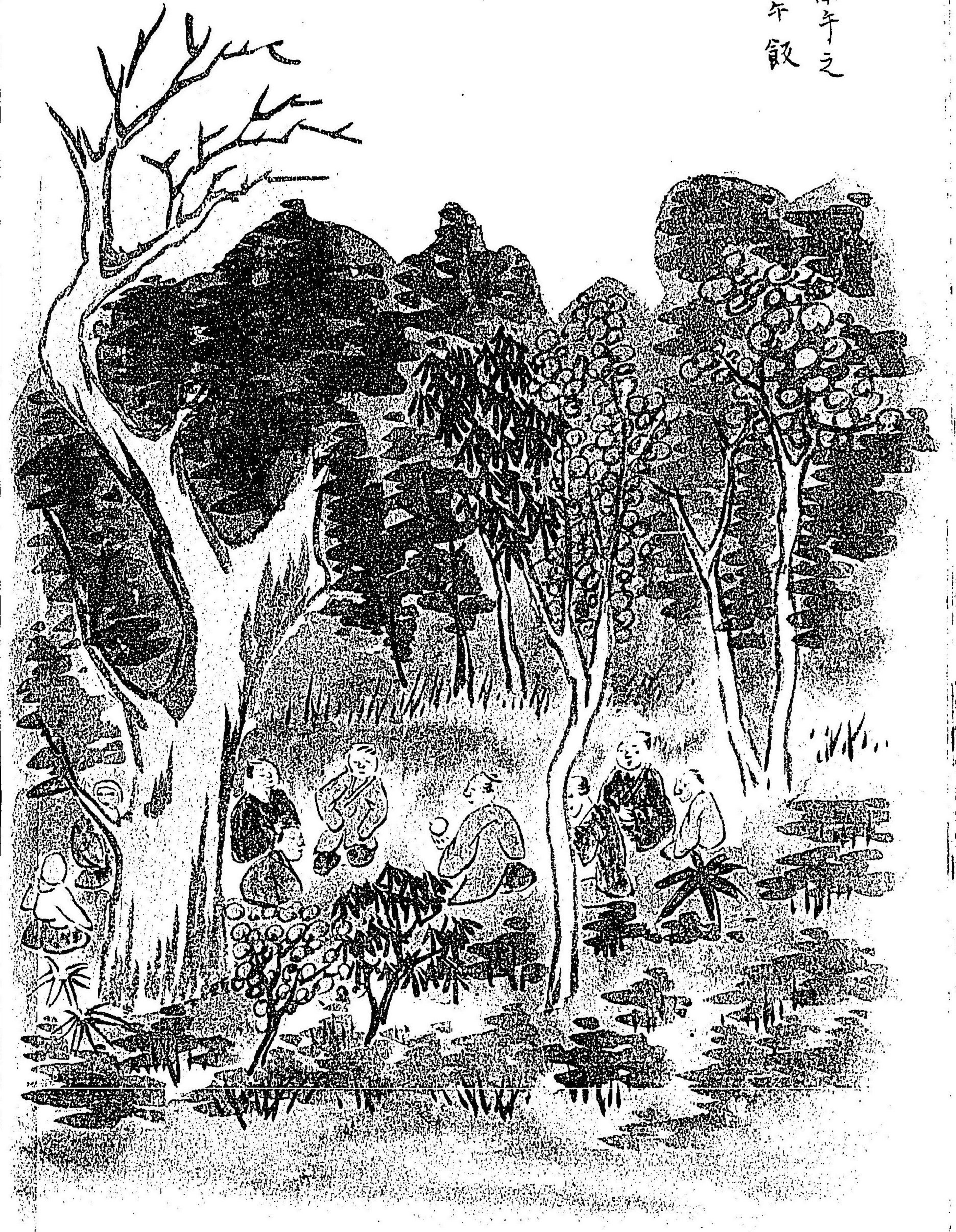
向島山上眺望圖補



母島鉾浦雨中
樂鉾の因神

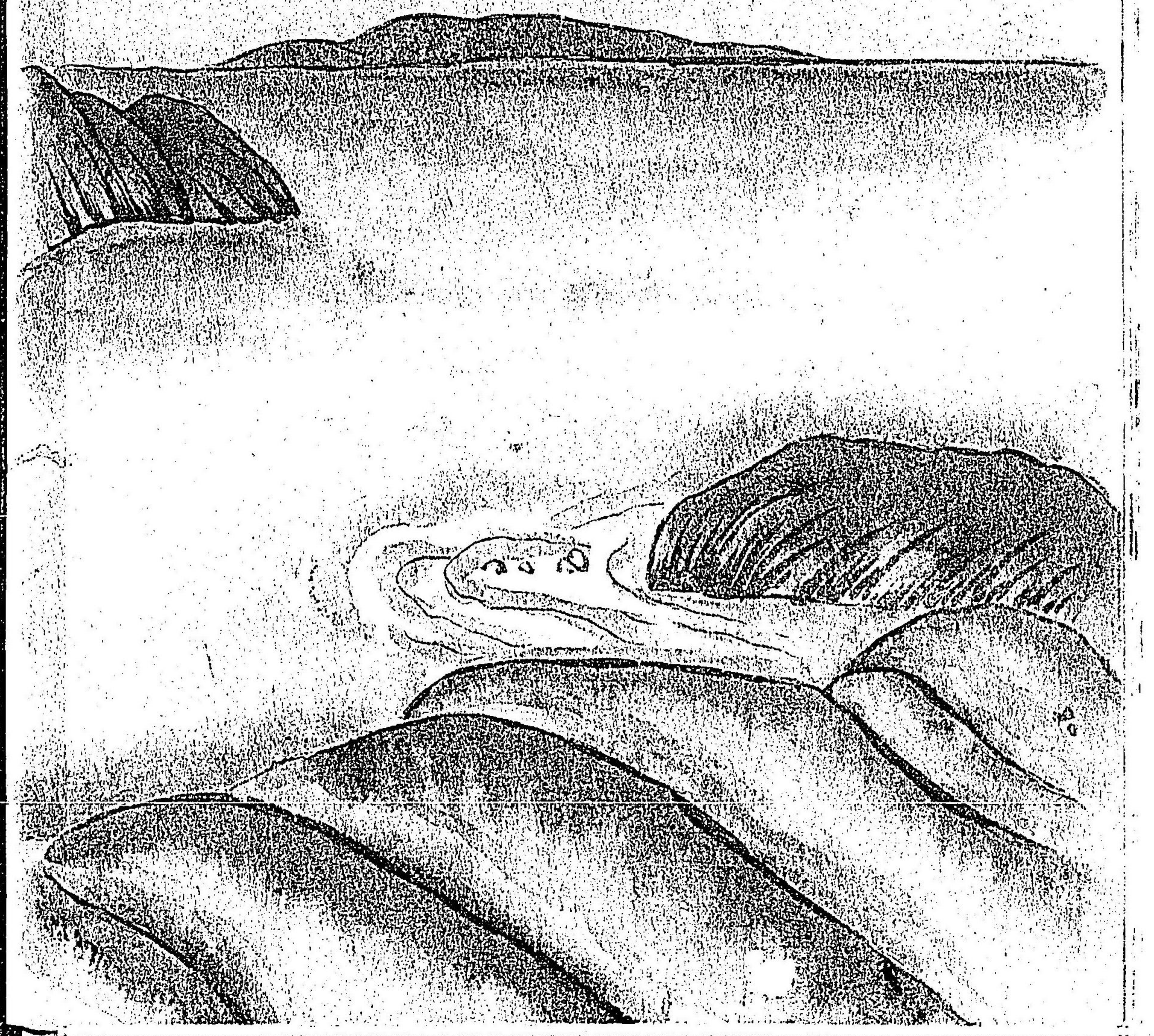
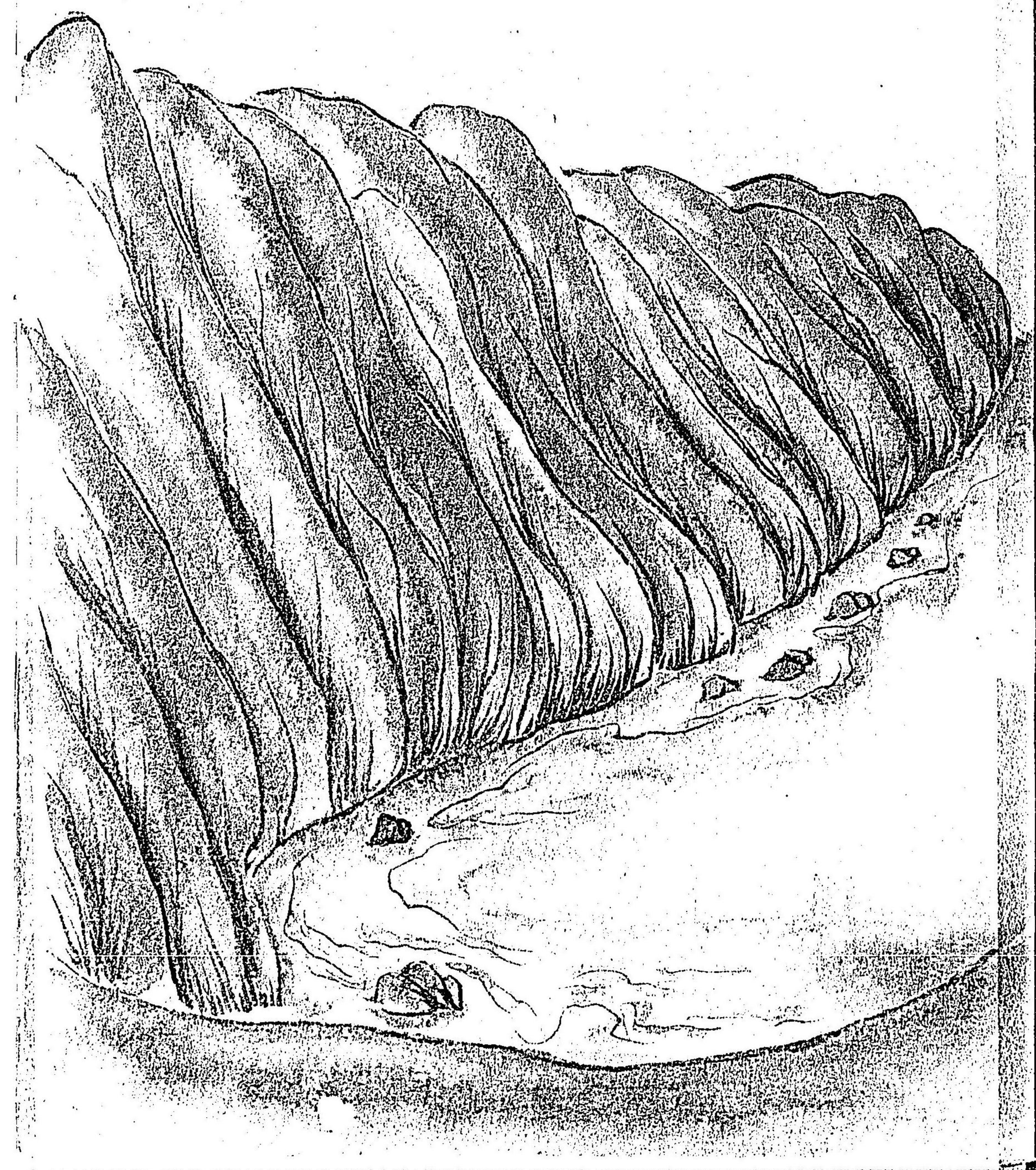


母島南午之
山上喫午飯
圖補

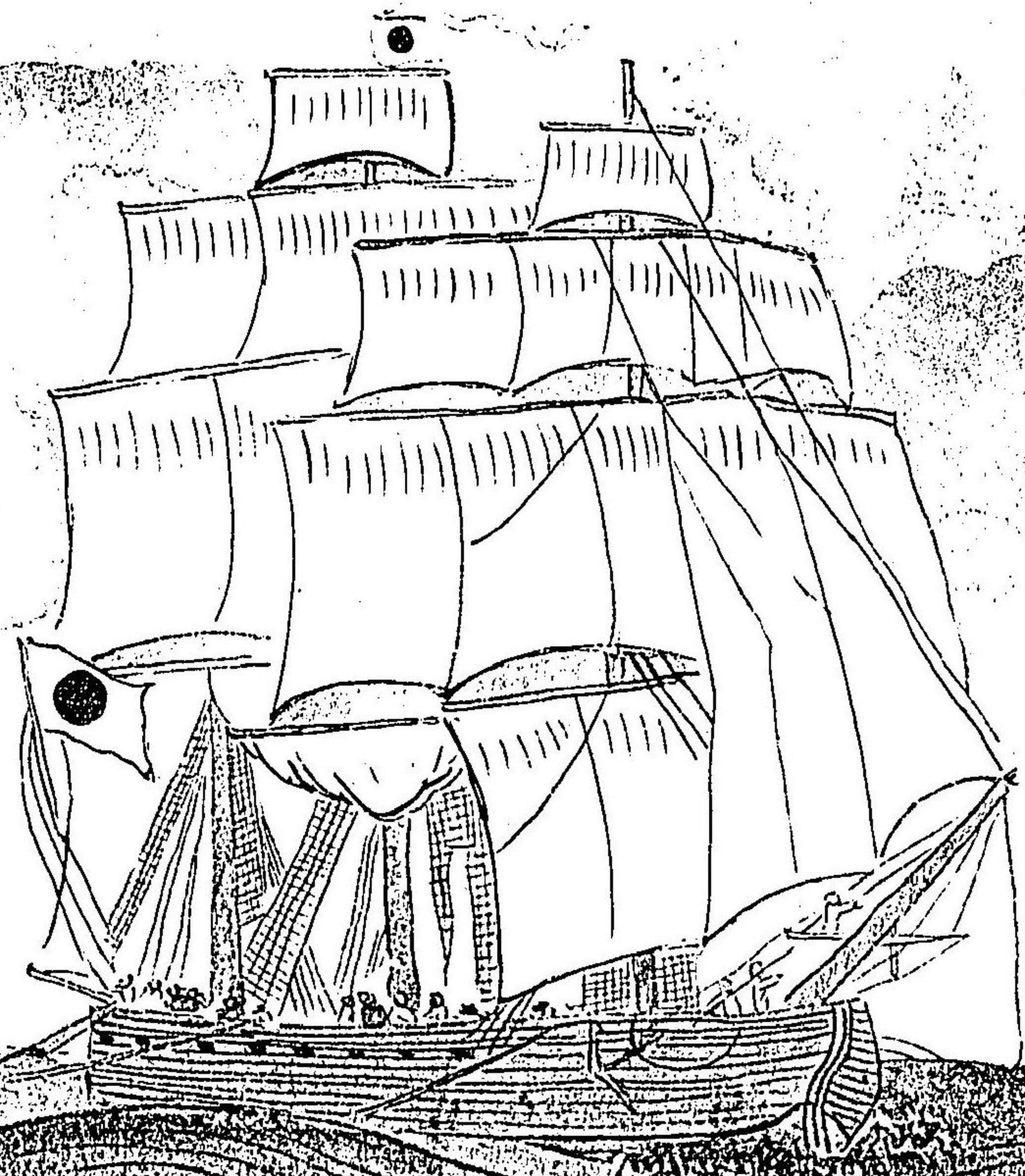
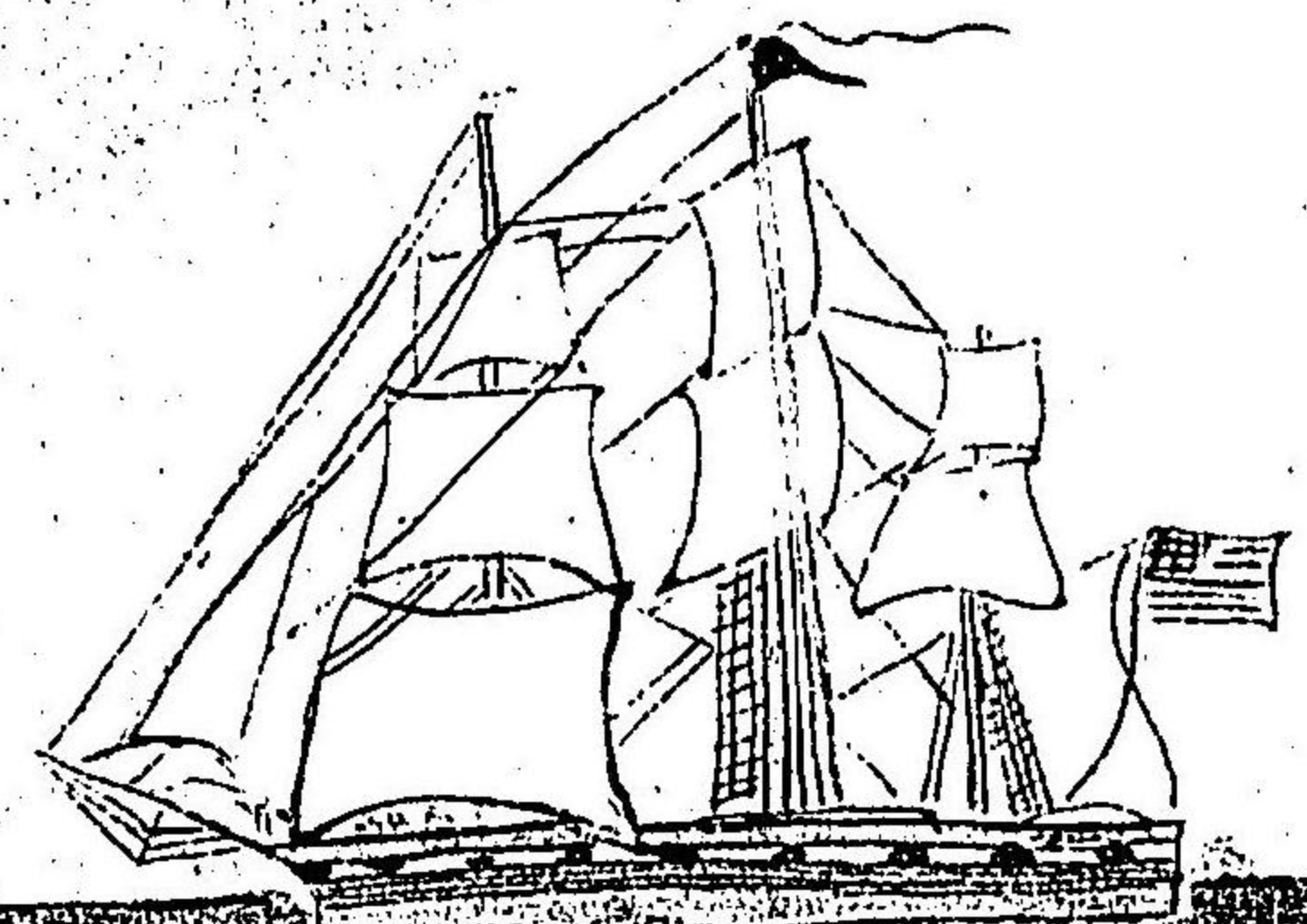


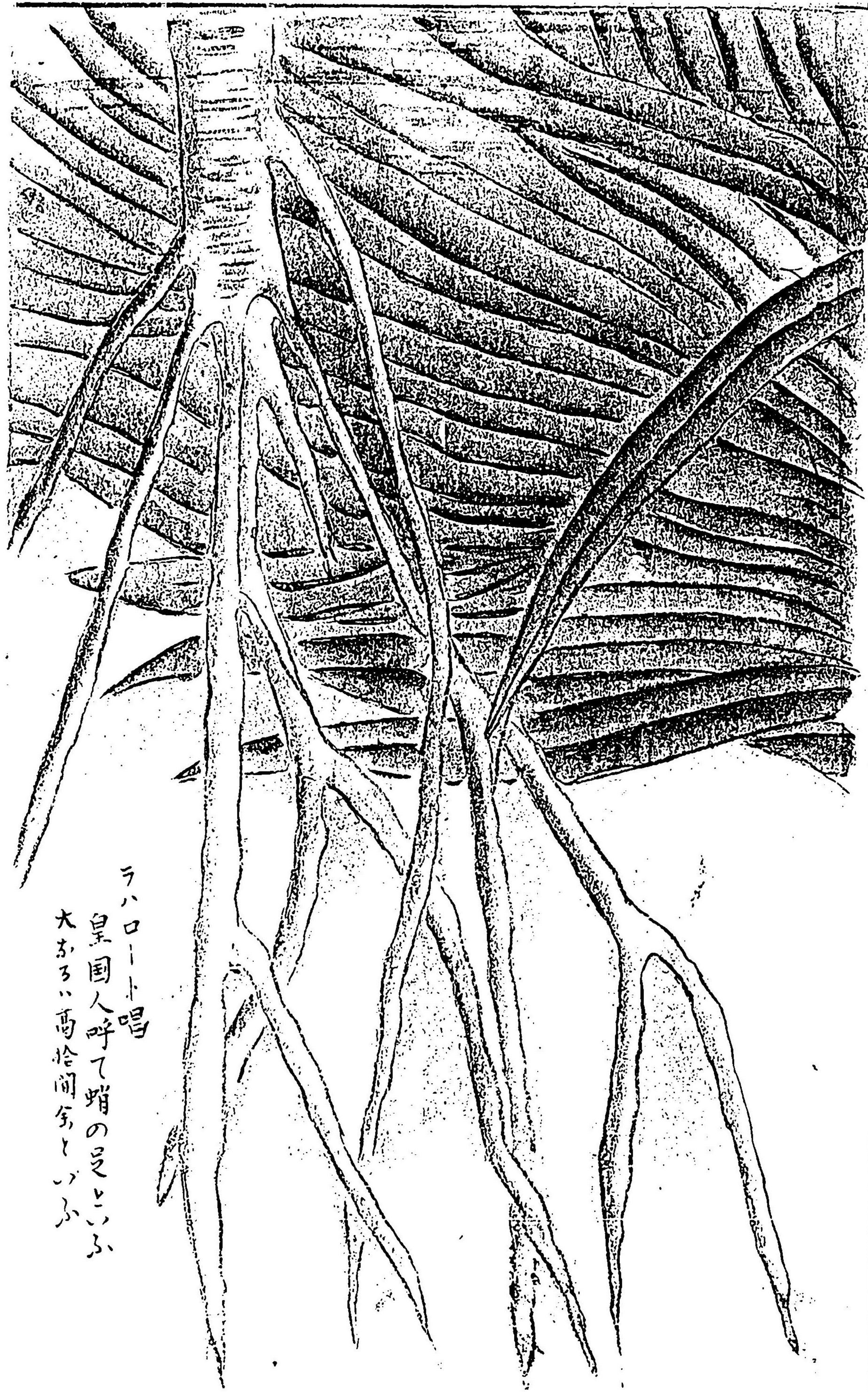
母島乳房山上
眺望之図 神

島 父

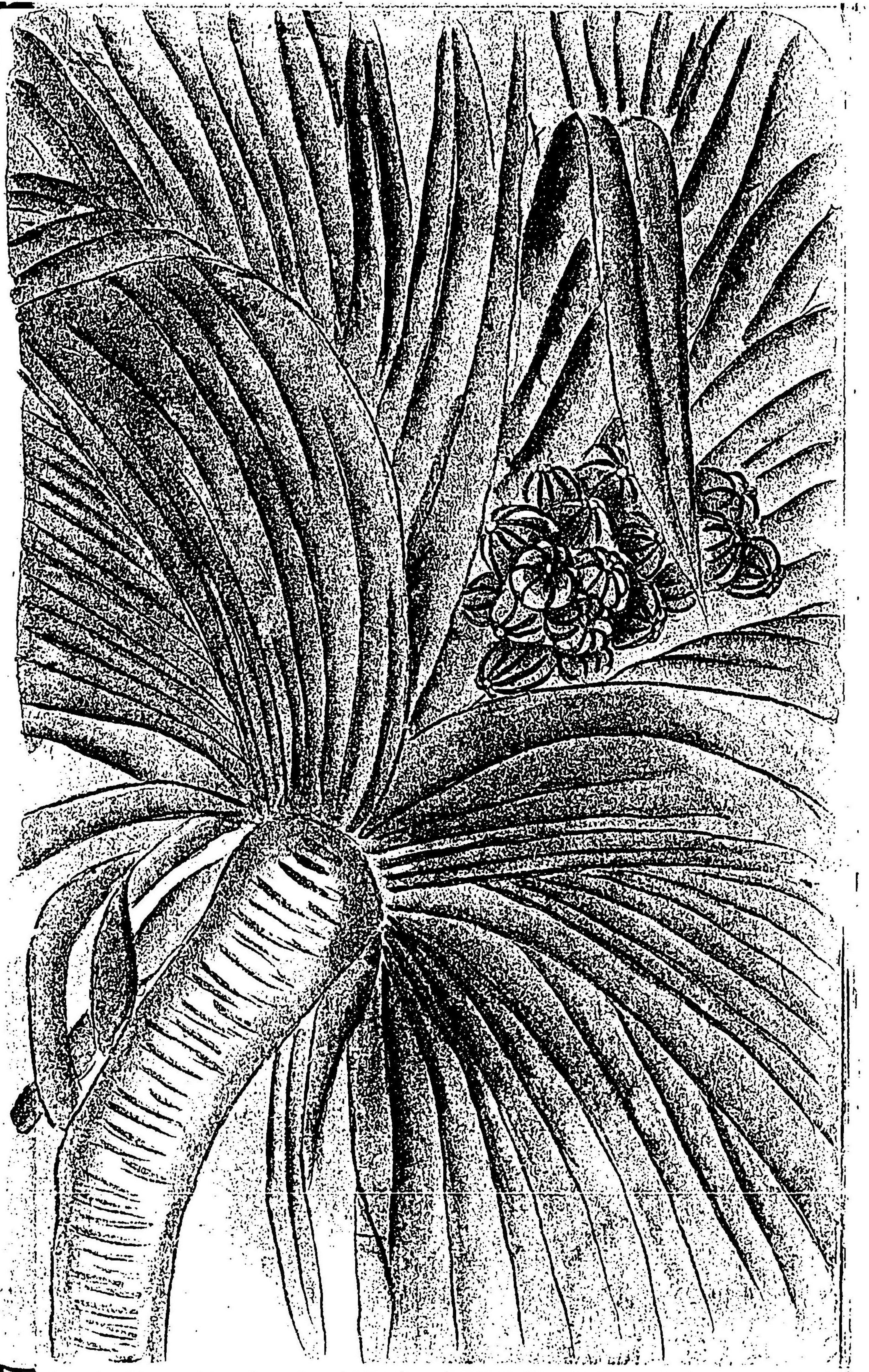


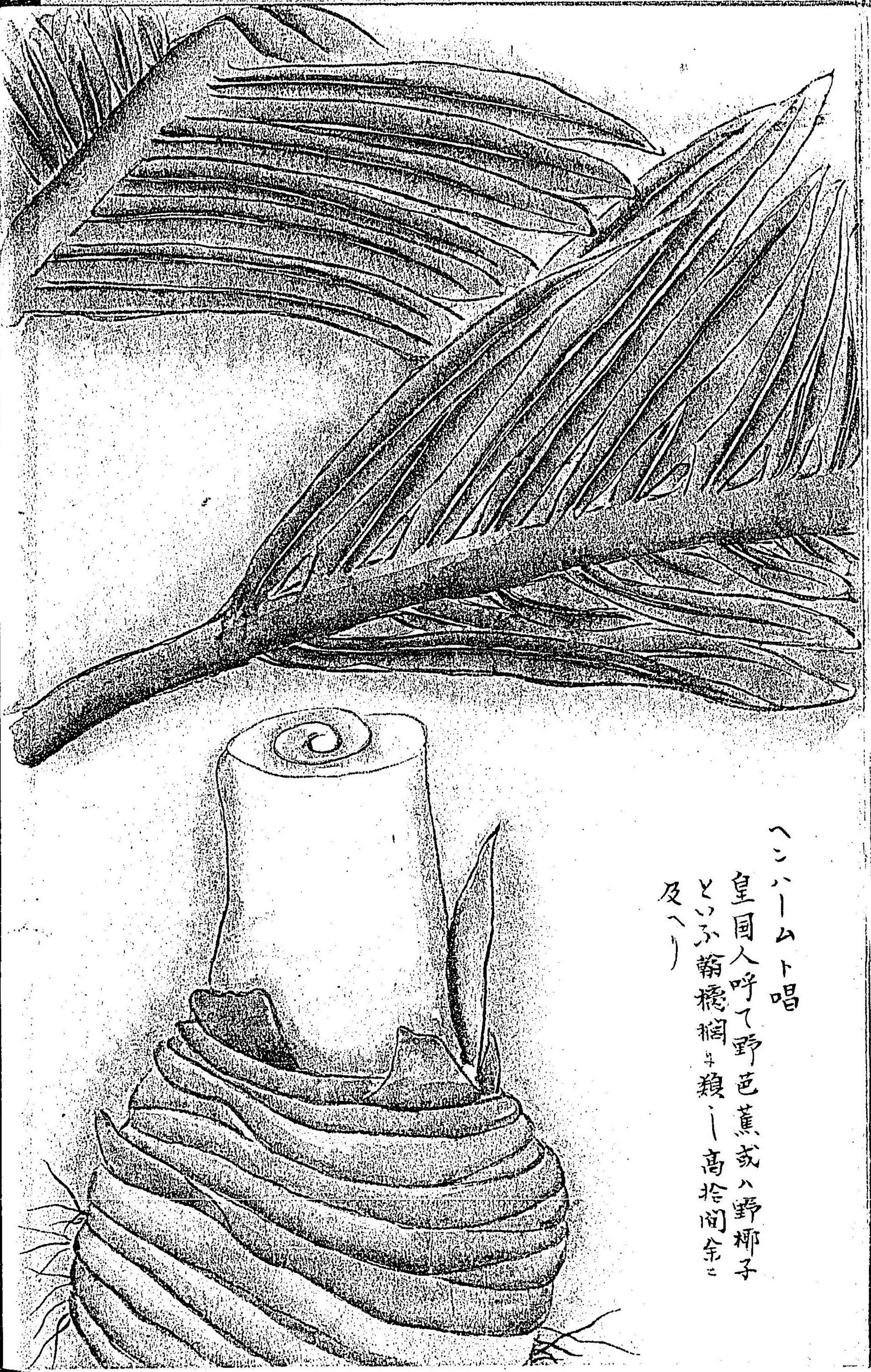
戊三月十日
咸臨九歸途洋中
遇亞利加鯨澳
船因補





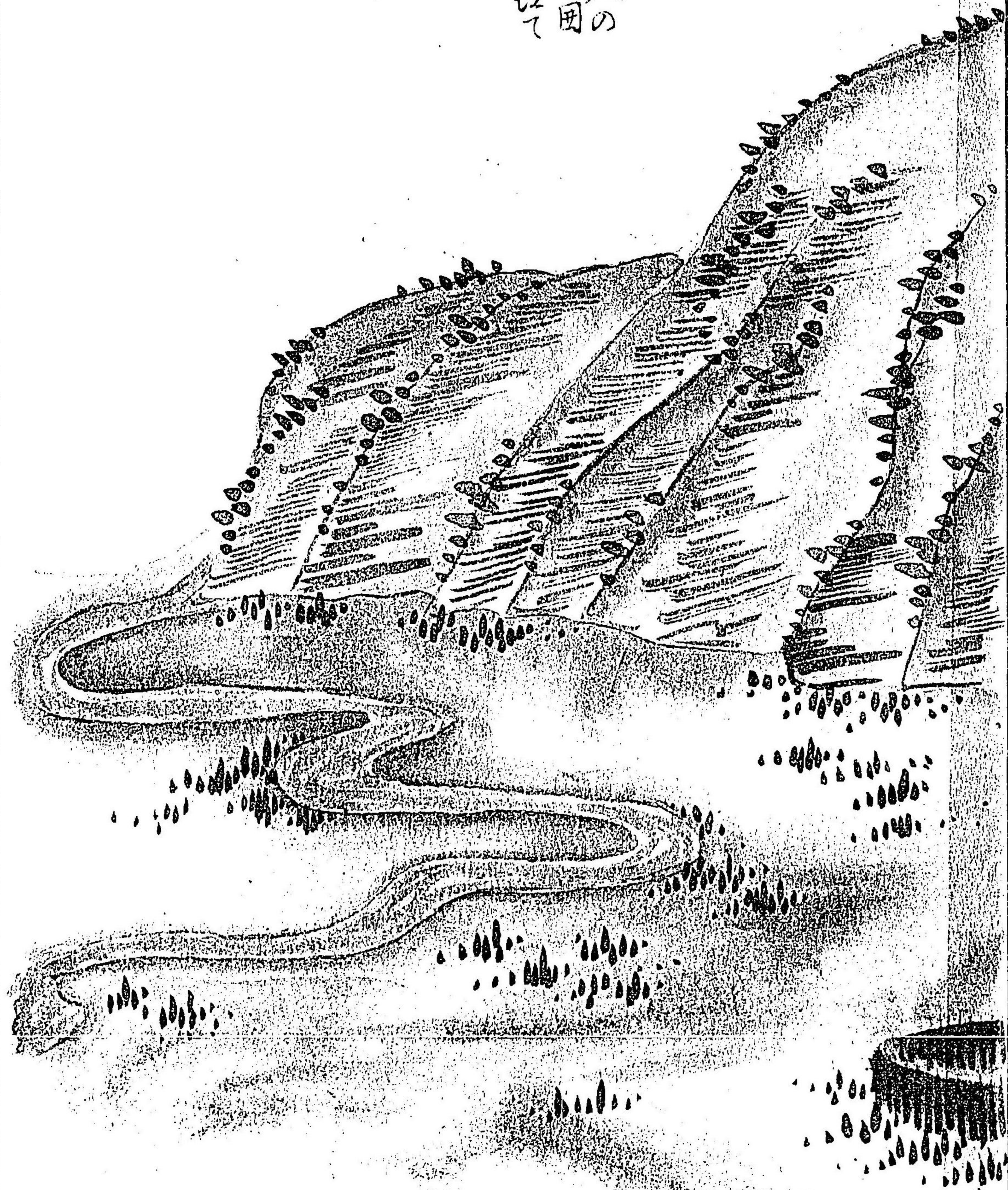
ラハロート唱
皇國人呼て婿の足といふ
大なるハ高拾間余といふ





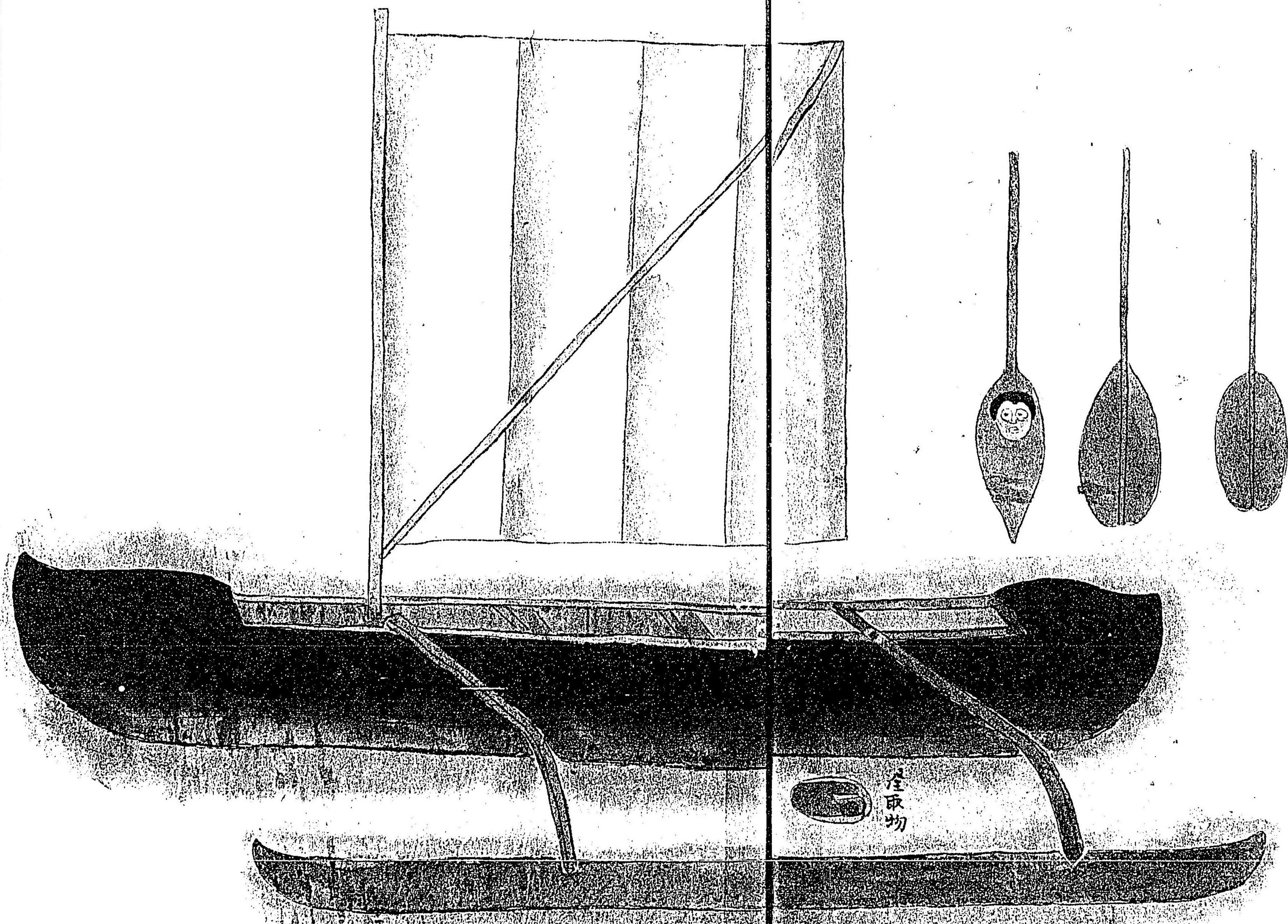
ヘンハムト唱
皇國人呼て野芭蕉或ハ野椰子
といふ蕪橋欄ヲ類一高拾間余ニ
及へり

島中外国人の
家屋如四周围
橘樹の葉を以て
葺く



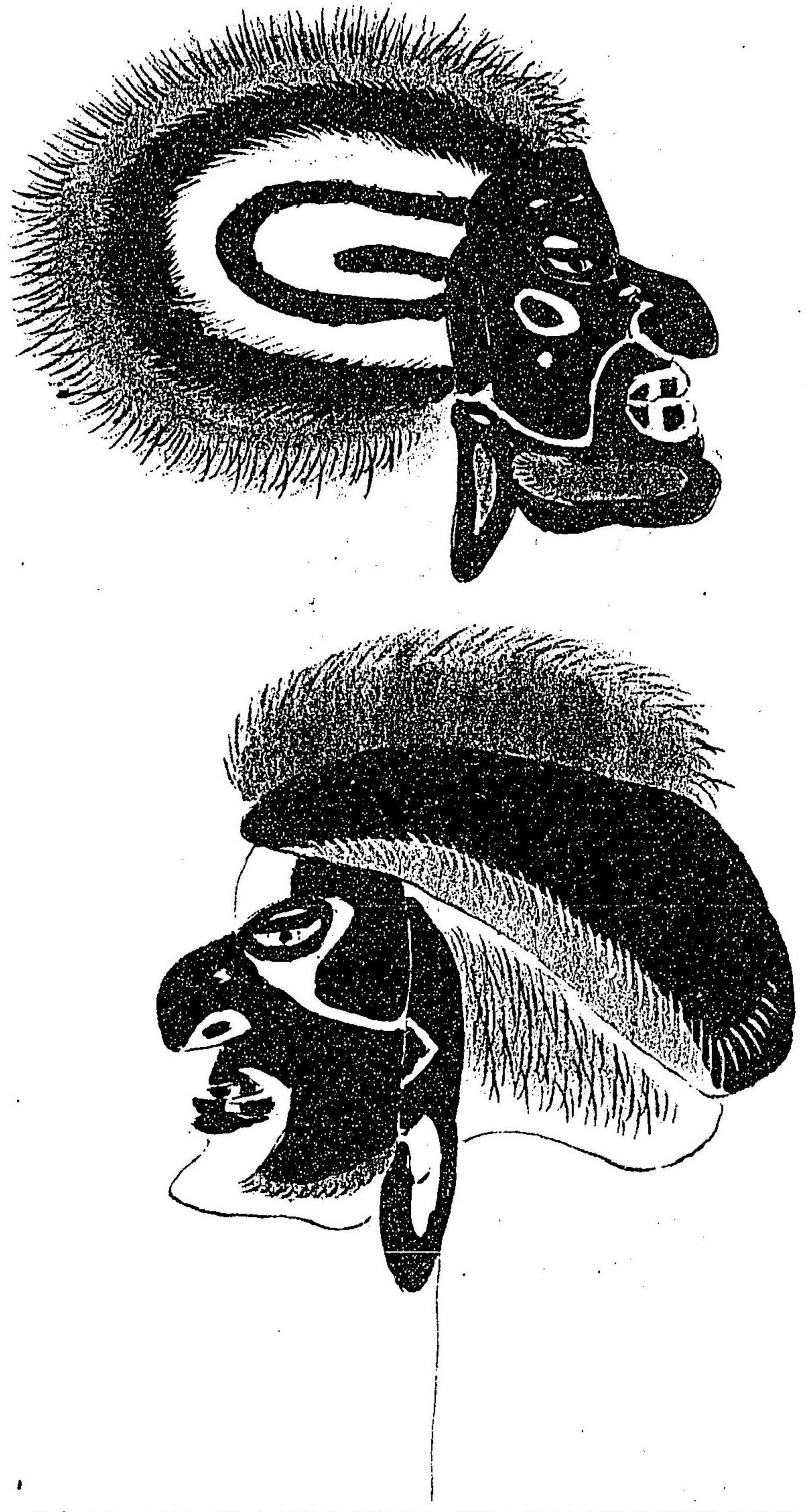
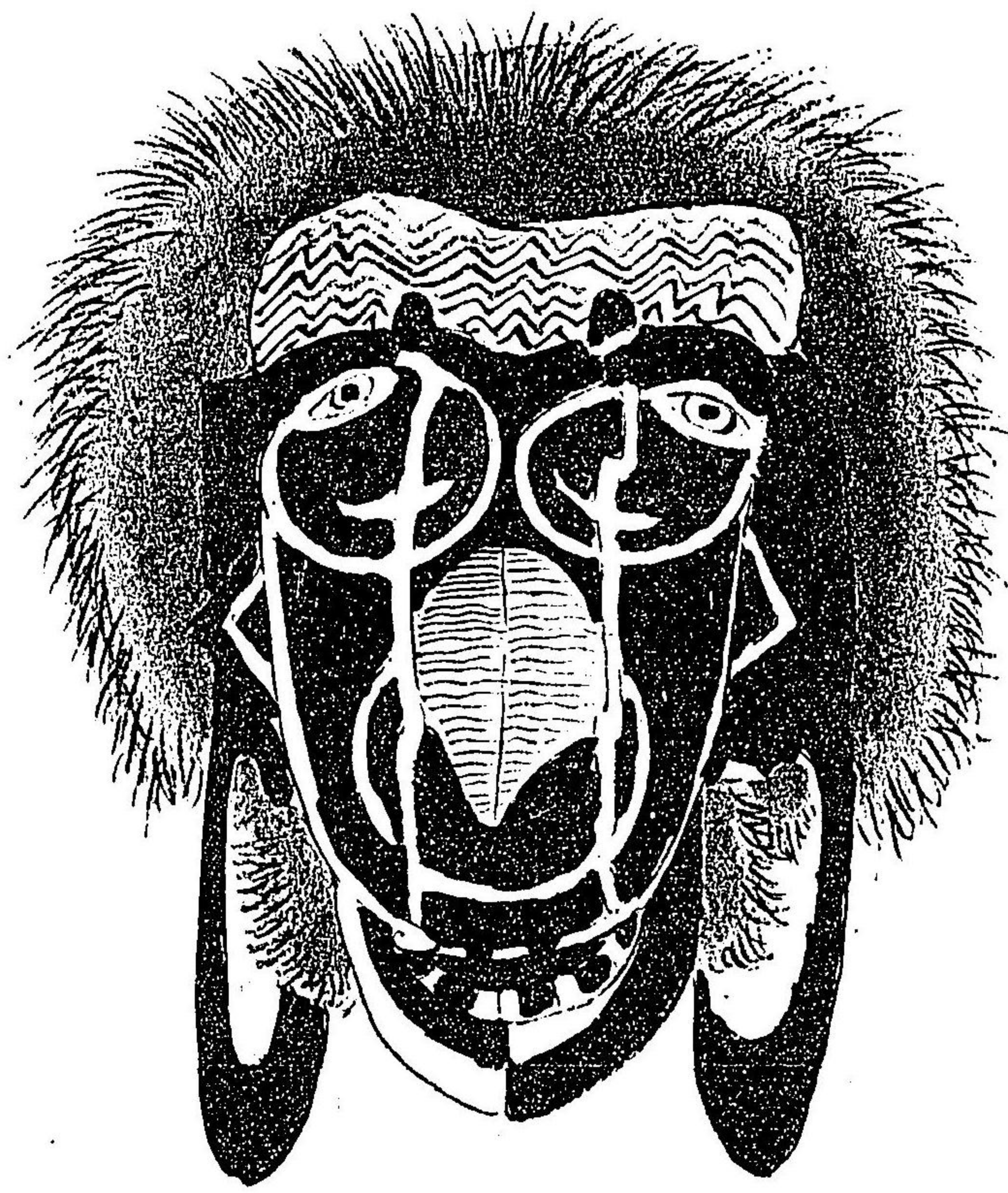
クヌー船之圖

丸木を刳てて造る島民
の舟柄を母島へも往還す
といふ



金取物

ク又一船小装ふ面之図之一補





文久元年辛酉有

命巡視小笠原島創置官府撫其住民受其仕者外
國奉行水野菟後守與其僚屬調役由井太左衛門
調役並田辺太一書物方畠田達三須藤誠二郎定
役元締佐小花作之助定役益田鷹之助同心松浪
權之丞目付服部煇一与其僚屬徒目付佐藤直三
郎松本三之丞小人目付林和一郎其他勘定深山
宇平太權普請役上村井善平司其資財兼測山川
江川太郎左衛門守附中濱万次郎長崎通詞堀一
郎通其言詞官医小野苓菴大垣藩医官水元道掌

其醫療兼探物產繪景物而所坐咸臨官船小野友
五郎統其指揮塚本桓輔松岡磐吉豐田港西川倍
太郎按其針路柴弘吉淺羽甲次郎鈴木録之助令
其運用杉浦金次郎喰代和三郎高橋栄司運其汽
機近藤熊吉掌其鏡礮矢野沢次郎吉轄其用費外
有水夫役僕若干人以今十二月三日發都至翌壬
戌春三月廿七日還為程千幾百里為日百十有六
日小笠原島真景因成乃附題姓名如左

岩倉重隆出雲守左衛門尉
少左衛門南陽守系尾光隆丹
精進不忠清古治中出島重隆
右衛門督左衛門何進之松前西隆
陸奥守前自三位重右衛門
成伏之重就中佐重隆
孫系清左衛門出雲守左衛門

至其好又而浦等處亦得不可謂
波碑之少也其建之亦甚心之至地
能之見矣也地仕亦幸其方以丹精
之能了之也其中心未之付也地
亦以拂以之少物美也其地亦
其地亦幸其地之能也其地亦
其地亦幸其地之能也其地亦
其地亦幸其地之能也其地亦
其地亦幸其地之能也其地亦

此其好又而浦等處亦得不可謂
波碑之少也其建之亦甚心之至地
能之見矣也地仕亦幸其方以丹精
之能了之也其中心未之付也地
亦以拂以之少物美也其地亦
其地亦幸其地之能也其地亦
其地亦幸其地之能也其地亦
其地亦幸其地之能也其地亦

十二年

其地亦幸其地之能也其地亦

作

無

去年冬月 區無不其 以信通
折單乃 主好亦好 以信通
以信通 以信通 以南信
為山帖 在何年 為山帖
以信通 以信通 以信通
以信通 以信通 以信通
以信通 以信通 以信通
以信通 以信通 以信通

新刊 古本 五在 秘本
秘本 古本 抄本 古本
世傳 無一 抄本 古本
古本 古本 古本 古本
古本 古本 古本 古本
古本 古本 古本 古本
古本 古本 古本 古本
古本 古本 古本 古本

正日 廿三日

小宛作 西様 古本 秘本
別本 秘本

癡雲ハ 宛後 守忠 徳ハ 致仕 後ノ 名也 因ニ 此書
翰ニ 通ヲ 琴 寫載セ 製圖ノ 緣故ヲ 知ル 一証トス

真景図二本アル旨ハ既ニ凡例ニ云フ如シ原図
一本ハ小花作助カ所藏ヲ以テ疾ク本省ニ摹写
シ書庫ニ藏メラル其圖及又同人カ藏スル所ノ
再校図ヲモ借リ得テ對照スルニ總テハ大同小
異也ト虽氏原図ニ脱スルモノモ亦少カラズ因
テ画図外務權少録河野雪巖ニ議リ両図ヲ参考
シ其脱ヲ補ヒ此図ヲ製リ寫字生中島政信ヲシ
テ摹寫サセシメ以テ紀事ノ卷末ニ附シ参考ノ
一端ニ備フ

